

# 法政大学学術機関リポジトリ

## HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-09

### 和仏法律学校講義録

富谷, 銀太郎 / 赤司, 鷹一郎 / 矢作, 榮藏 / 粟津, 清亮 /  
下村, 宏 / 加藤, 正治

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

45

(発行年 / Year)

1899-10-25

利佛滿院佛堂  
義鑄金塔

每月單回

次

商法保險(至九二五頁)法學士栗津清亮

財政學(自一三八頁)法學士下村宏

海商法(自五三四頁)法學士加藤正治

手形法（自三四四頁）法學博士富谷鉉太郎

經濟學(自二四五頁)法學士矢作榮藏

商法商行為（自五七頁）  
至六二頁 法學士赤司鷹一郎

商法商行為  
(至六二頁) 法學士赤司鷹一郎

第拾八號

090  
1899  
2-1-18

ヲ受取ラスシテ他ニ受取人ヲ定ムルコトヲ得ルヤ明カナリ然レトモ損害保險ニ在リテハ損害ヲ被ルヘキ者ハ被保險者以外ニ存在スヘカラサル久故ニ被保險者以外ニ保險金受取人ナル者ノ發生ヲ認メサルナリ然ラハ生命保險ニ於テモ被保險者生存ノ場合ニ保險金ヲ拂渡ス所ノ種類例へハ生存保險又ハ養老保險ニ於テハ被保險者以外ニ保險金受取人ヲ定ムルコトヲ得サルヤト云フニ決シテ然ラス何トナレハ生命保險ニ於ケル被保險利益ハ屢被保險者ト他ノ第三者トノ關係ニ存在スルカ故ニ生命保險ノ保險金受取人ハ損害保險ノ被保險者ト同一ノ地位ニ在リ被保險者ノ死亡生存ニ拘ハラス別ニ保險金受取人ヲ定メ得ヘキナリ

保險金受取人タルノ資格ハ被保險生命即チ被保險者ト財產上ノ利益關係ヲ有スルコトニ存スルヲ普通ノ法理ナリトス即チ被保險者ノ相續者父母兄弟姊妹等ハ勿論主人ト學儀債權者ト債務者共算組合人等ハ財產的關係ヲ有スル者ニシテ皆保險金受取人タルヲ得ルノ理ナリ外國ニ於ケル多クノ立法ハ之ヲ認メ又普國ノ如キハ更ニ其實格ヲ自由ニシテ苟モ被保險者ノ承諾アル以上ハ誰人

ニテモ受取人タルコトヲ得又英國ニハ曩ニ述ヘタル如ク證券所持人アリ利益關係ヲ有スル以外ノ人ニマテ之ヲ許スニ至レリ此ノ如キハ保險ノ應用ヲ盛ニシ其効用ヲ發揚スル爲ミニハ大ニ適當ナル主義ナリト雖モ保險カ損害ノ賠償ニシテ被保險利益ノ保護ナリト云フ精神ニハ違反シタル規定ナリ保險ハ賭事ニ非ス被保險者カ死亡シテ之ト何等ノ利害關係モ無キ者カ保險金ヲ受取ルコトハ不當ナリ保險契約ハ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ爲ミニ締結セラルヘキモノニ非ス縱令被保險者ノ意思ナリトモ其死亡ニ由テ受クヘキ財產ヲ利害關係無キ他人ニ贈與セシコトハ保險契約カ任スヘキ性質ノモノニ非ス贈與若クハ遺贈ハ宜シク他ノ贈與若クハ遺贈ニ適當ナル方法又ハ形式ニ依テ爲スヘキナリ

保険金受取人ハ何人ニテモ可ナリト云フカ如キ開放主義ハ前陳ノ理由ニ依リ予輩ノ贊成セサル所ナレトモ之ヲ我商法ノ如ク甚シク狹隘ニ制限スルコトハ予輩ノ常ニ攻撃スル所ナリ我商法ハ前ニ掲ケタル如ク保險金受取人ヲ被保險者自身ト其相續人又ハ親族ニ限ルトシ甚シク保險利用ノ道ヲ塞キタルハ遺憾ニ

堪ヘサル所ナリ此ノ如キ制限ハ萬國其類ヲ見サル所ニシテ之カ爲ミニ主人ハ學僕ノ爲ミニ契約ヲ結ヒ得ス内縁ノ妻モ亦夫ノ死亡ニ因ル損害ヲ免カル、ヲ得ス債務者ハ保險契約ニ由テ其信用ヲ保ツノ手段ヲ利用スル能ハス不便一方ナラサルナリ而シテ此ノ如キ不便ヲ省ミシシテ此ノ如キ規定ヲ設ケタル精神ハ生命保險ヲシテ賭事ニ陷ラシメス又被保險者ト愛情ノ關係薄キ保險金受取人カ保險金ヲ得ンカ爲ミニ被保險者ヲ害セントスル恐アルヲ防カソ爲メナリト云ヘリ然レトモ是レ甚ダ薄弱ナル理由ニシテ保險ヲ賭事ニ陷ラサラシメンニハ被保險利益ナキ契約ヲ禁スレハ可ナリ又第二ノ恐ニ至リテハ嚴タル刑法ノ制裁ト契約無効ノ防禦器アレハ其上無理ナル方法ヲ講スルニ及ハサルヘシ縦令親族間ト雖モ刑法ノ制裁ヲ恐レス契約無効ヲ賭シヲ被保險者ヲ害スル者無シト保スヘカラサルヲヤ多少ノ弊害ハ事物ノ利益ニ伴フモノニシテ盡ク之ヲ排除セシコトハ言フヘタシテ行フヘカラサレハ保險金受取人ノ如キモ多少ノ危険ハ當事者ノ監視ニ委シテ可成自由ニシス行爲ノ利益ヲ廣大ナラシメンコトヲ望ムナリ而シテ此希望ヲ充タサンカ爲ミニハ今日世界ニ於テ最モ普通

トセラル、主義即チ被保險者ト利益關係ヲ有スル者ハ受取人タルコトヲ得ル  
コトニ從フヲ以テ至當ナリト思惟ス

保険金受取人ヲ定ムルコトハ保険契約者ノ任意ニシテ被保險者ト法規上ノ關係ヲ有スル者ナラハ誰人ヲモ之ニ指定スルコトヲ得ルナリ故ニ一タヒ定メタル受取人カ死スルカ又ハ彼ト被保險者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保険契約ハ之ニ代ルヘキ受取人ヲ定ムルコトヲ得ルトセリ嚴格ナル法理ヨリ論究スルトキハ是レ甚タ不當ナル規定ニシテ第一ノ受取人ヲ定メタル契約ハ彼ト被保險者間ノ關係ヲ保険ノ目的トセルナリ故ニ彼カ死スルカ又ハ親族ノ關係ヲ脱シタルトキハ當該目的カ消滅シタルモノナレハ契約ハ當然消滅スヘキ理ナリ故ニ我商法モ第四百二十八條第三項ニ於テ左ノ如ク規定セリ

保険金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保険金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保険契約者ハ更ニ保険金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲ミニ積立ヲタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

其末段被保險者ノ爲ミニ積立ヲタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得トハ即チ契約カ無効ニ歸シ保険契約者カ拂戻金ヲ得テ退クヨニシテ之カ當然ノ結果ト謂フヘキモノナリ然レトモ受取人ノ死スル毎ニ又ハ親族關係ノ止ム毎ニ契約其物ヲ無効ニ歸セシムルハ保険契約者又ハ被保險者カ折角ノ特志ヲ以テ其相續者又ハ親族ノ爲ミニ契約ヲ取結ヒタルヲ水池ニ歸セシムル憾アリ加之彼カ再ヒ他ノ親族ヲ受取人ト爲サント欲セハ再ヒ他ノ契約ヲ締セサルヘカラサル不利アルカ故ニ法律ハ特ニ便宜ノ方法ヲ設ケ保険契約者カ契約ヲ解クコトヲ望マサル場合ニハ契約ノ効力ニ影響ヲ及ホナスシテ第二ノ受取人ヲ選定スルコトヲ得トセルナリ而シテ此ノ如クスト雖モ毫モ弊害ヲ生セサルノミナラス却テ保険ノ利カツ圓滑ナラシムル効アリ

保険金受取人ノ請求權ハ被保險者死亡若クハ或一定ノ年齢ニ達シタルトキニ始メテ發生スルモノニシテ保険金受取人ノ権利ハ其條件附權利ナルコト恰モ遺贈及ヒ遺言ニ因リテ利益ヲ受クヘキ者ノ権利ト同一ノ趣アリ故ニ保険金受取人ヲ指定シ得ル所ノ彼ノ保険契約者ハ事故ノ發生マテハ何時ニテセ受取人

ヲ變更スルコトヲ得其代リニ事故ノ發生ト共ニ保険契約者及ヒ被保險者ノ權利義務ハ悉皆保險金受取人ニ移リ保険契約者ハ最早如何ナル權利ヲモ享有セナルナリ

而シテ第一ノ保險金受取人カ死亡シ又ハ資格ヲ失ヒタル場合ニ於テ保險契約者カ第二ノ受取人ヲ指定セス又拂戻金ヲモ請求セザルトキハ如何之ニ對レバ左ノ三答ナカルヘカラズ

(一) 契約ハ當然効力ヲ失フ

(二) 保險金受取人ノ承繼者カ受取人ト爲ル

(三) 被保險者カ受取人ト爲ル

(一) ハ保險金受取人ヲ契約ノ本位ト爲シタル議論ニシテ固ヨリ正統ナル理由アリト雖モ曩ニモ述フルカ如ク生命保險契約ハ單ニ特定ノ保險金受取人ノ利益ノ爲メニ締結セラル、ニ止マラス被保險者カ其未タ定マラサル相續者ノ爲メニモ締結シ且此方カ事實ニ近キヲ以テ受取人ノ死亡又ハ失格毎ニ契約ノ効力ヲ失セシムルハ法ノ執ルヘキ主義ニ非ス

(二) ハ受取人ノ権利ヲ動カスヘカラサル權利ト誤解シタル說ニシテ死亡シタル受取人ハ終ニ保險金ヲ請求シ得ルノ時期ニ際會シ得サリシモノナリ其承繼者孰ソ獨リ之ニ際會シ得ヘケンヤ況ヤ受取人ノ資格ヲ失ヒタル者ノ承繼者ニ於テフヤ

(三) ハ最モ正當ナル論結ノ如ク思惟セラル、所ニシテ苟モ契約ノ本位ヲ保險金受取人ニ取ラス被保險者ノ着實ナル後顧ノ精神ヲ保護スルニ在ルナラハ保險金受取人ノ無クナリタル場合ハ被保險者自身ヲ受取人トシ彼カ死亡ノ場合ニハ其相續者ヲシテ當然受取人タラシムルヲ妥當ナリトス然レトモ是レ予輩ノ希望ニ過キス我商法ノ規定ハ却テ之カ反對ヲ示スカ如シ何トナレハ第四百二十八條第四項ニ曰ク

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

ト前項ニ定メタル權利トハ更ニ受取人ヲ定メ又ハ拂戻ヲ請求スルコトノ權利ニシテ之ヲ行ハスシテ死亡シタル場合ハ被保險者カ受取人タリト云ヒ死亡セサ

ル○場合ハ之ヲ規定セサルノミナラス却テ反對ノ意味ヲ表スレハナリ  
以上三個ノ答案皆當ラストセハ如何ナル解釋ヲ採テ可ナルヘキヤ該條文ヨリ  
來ル所ノ當然ノ論理トシテ保険契約者カ死亡セズシテ前項ノ權利ヲ行ハサル  
場合ニハ被保險者ヲ以テ保険金額ヲ受取ルヘキ者トセサルコトハ明白ナリ而  
シテ受取人ノ承繼者カ受取人タルヘカラサルコトハ前述ノ如シトスレハ殘ル  
ハ唯保険契約者自身ナリ而モ彼カ當然受取人タルトキハ予輩其根據ヲ發見スル  
ニ苦シムナリ但強ヲ之ヲ主張セント欲セハ左ノ二個ノ理由ヲ得ヘシ  
(一)契約者ハ受取人ヲ定ムル全權ヲ有セリ彼ハ保険金ヲ受取ルヘキ權利ノ源泉  
ナリ故ニ彼カ別ニ之ヲ定メサルトキハ彼自身ニ其權利ヲ保有スル場合ナリ  
但彼カ商法ニ據リテ保険金受取人タル資格ヲ有セサルトキハ契約ハ無効ニ  
歸ス

(二)契約者カ權利ヲ行ハスシテ死亡セルカ故ニ其受取權カ被保險者ニ移ルナリ  
彼カ死亡セサレハ當然自ラ保険金ヲ受取ルヘキ者ナリ  
而モ此理由ノ牽強附會ニシテ薄弱ナルコトハ諸君ノ直チニ指摘シ得ル所ナラ

ニ流動公債タルコトヲ妨ケサルナリ  
準紙幣ハ流通ノ强制力ナキカ發換ノ義務アルカ又ハ二者ヲ兼有スル紙幣ナル  
ヲ以テ何レモ外面上銀行手形ノ性質ヲ有スルモノナリ然レトモ其發行者ヲ異  
ニシ且其發行ノ制限ハ最モ注意ヲ要スルモノナリ發換準備金ヲシテ紙幣ト同  
額ナラシムルハ發換紙幣其モノ、効果ヲ全滅セシムルモノニ外ナラス又準備  
少キニ失スルカ又ハ正貨ヲ以テセサルトキハ一朝事變ニ際シテ此ニ應スルコ  
ト能ハサル可シ乃チ發換紙幣發行法ノ問題ハ財政上又重要ニシテ貨幣論ノ主  
トシテ論究ス可キモノナレハ此ニ之ヲ略シ唯我邦現行ノ發換紙幣發行法ノ大  
要ヲ述フルニ止メントス

發換紙幣發行權ハ日本銀行條例第十四條ニ依リ日本銀行之ヲ有ス其細則ハ舉  
ヶテ明治十七年五月第十八號布告十八年第十九號布告二十一年勅令第五十九號  
二十三年法律第三十四號及ヒ三十年法律第十八號ニ在リ發換紙幣ノ發換正貨  
八金貨ニ限ラレ(兌換銀行券)合法貨幣トシテ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ通用  
スルコトヲ得(第四條)但引換ハ日本銀行ニ於テ營業時間中之ニ應シ唯支店ニ

テハ本店ヨリ準備金ノ到達ス可キ時間ノ延期ヲ爲スコトヲ得第六條若シ反對ニ金貨ヲ以テ兌換券ト引換ヘンコトヲ乞フ者アルトキハ無手數料ニテ之ニ應スルモノトス(第七條其種類ハ一圓、五圓、拾圓、貳拾圓、百圓、二百圓ノ七種ニシテ第三條其發行額引換準備ノ規定ハ兌換銀行券條例第二條ニ定ムル所タリ)

即チ

日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但銀貨及銀地金ハ引換準備總額四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

日本銀行ハ前項ノ外特ニ壹億貳千萬圓ヲ限り政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項壹億貳千萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣

臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時大藏大臣之ヲ定ム  
乃チ獨逸制ニ模シテ又之ニ勝レリト爲ス所ニシテ金貨金地金四分ノ一マテハ銀貨銀地金ニテモ宜シノ引換準備ニ對シテハ固ヨリ無制限トシ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ノ保證ニ對シテハ四千七百萬圓ハ絶對的ニ許サレ二千七百萬圓ハ二十一年以降ノ國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限度トシテ許サレ其以上ハ大藏省ノ許可ト五分以上ノ發行稅ヲ條件トシア  
許可セラル、モノト爲スナリ

## 第二款 確定國債

### 第一項 總論

單稅論カ租稅制度トシラ實際理論共ニ不可ナルカ如ク國家財政上單一ナル國債ノミニ依リテ收支ノ適合ヲ計ルコトハ又等シク事理ヲ得タルモノニ非ス流

動國債ト云ヒ確定國債ト云フ各特有ノ長處アリ其間ノ權衡ヲ保持シ又其國債  
中各種ノ種別ヲ併セ用ヒスンハ非ス流動國債カ確定國債ニ超過スルハ同一ノ  
收入ヲ得ルニ無利子若クハ低利ヲ以テスルコトヲ得ヘキ利益ゾルカ如キモ其  
弊害ノ遙カニ利益ヲ減殺シテ剩リアルコトハ既ニ前款ニ於テ叙述スル所ノ如  
シ

確定國債ノ流動國債ニ勝レル點ハ其借用期限ノ長期ナルト其償還ニ急切ヲ要  
セス採量ノ餘地多キヲ以テ國庫ノ促迫ヲ告クルコトナキニ在リ國家ノ信用ヲ  
失墜シ市場ノ恐慌ヲ來スノ患ハ常ニ短期ノ國債ニ於テ之ヲ見ルコト多ク殊ニ  
兌換紙幣等ニ於テ然リト爲ス然レトモ國債ノ一部ニ偏重スルハ固ヨリ喜フベ  
キ現象ニ非ス其借用期限ノ長期ナルニ安ンシテ此カ償還ヲ等閑ニ付シ國債カ  
逐次累積シテ後世ノ負擔ヲ大ニスルニ至レハ率テ國家ノ信用ヲ削キ國債ノ發  
達進歩ヲ阻害スルコト無キヲ保セサルナリ

蓋シ確定國債ハ獨リ財政上政府ノ信用ニ止マラス一國ノ信用ヲ利用スルモノ  
ニシテ國民ノ負擔力ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリ蓋シ其國民ノ負擔額ニ至

リテハ確定國債ノ總額ノ大小政府ノ收入額ト國民ノ收入額ノ比例確定國債ノ  
利子ト市場利子ノ比率等ヲ標準トシ之ヲ各種ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ要ス  
可キモ結局確定國債カ明カニ人民ノ負擔ヲ増スハ明カルヲ以テ現時ノ立憲  
國ニ在リテハ何レモ憲法ニ由リ帝國議會ニ確定國債募集許否ノ權ヲ留保スル  
ヲ例ト爲シ又一方ニハ國債原簿ノ調製及ヒ記入公債證書ノ發行證書額而ノ記  
入ヲ爲シ法令ニ依リテ募集ノ方法拂込ノ期限利子ノ歩合償還ノ方法等ヲ規定  
シ以テ債權者ノ權利ノ確實ヲ保障スルニ至レリ

確定國債ハ大別シテ二種ト爲ス有期確定國債及ヒ無期確定國債是ナリ今此區  
別ヲ述フルニ先チ先ツ確定國債ノ過去將來ニ亘ル大體ノ趨勢ヲ一言ス可シ  
紀元十八世紀ノ末葉ニ至ルマテ所謂確定國債ト稱セラル、モノモ其實質ハ全  
ク流動國債ト其趣ヲ一ニセリ即ナ其償還期限短期ナリシノミナラス豫定ノ償  
還期限満了ノ有無ニ拘ハラス債權者ハ自己ノ利害關係ヨリ臨時國債償還請求  
ノ權利ヲ有シ又負債主タル政府モ財政上ノ便宜ニ從ヒ必シモ豫期ノ年限内ニ  
償還セサルコト少シト爲サス此ノ如ク償還期限短期ニシテ其償却方法モ亦確

定セサルヲ以テ政府ノ財政調和策タル國債ハ却テ政府財政整理ノ累ヲ爲スニ至リタリ是レ政府ハ財政ノ緩急ニ拘ハラス償還ノ義務急迫ナルヲ以テ國債額ノ増加ト共ニ却テ政府ノ負擔ヲ大トスルモノナレハナリ而シテ此弊害ハ消費國債ノ多キ當時ニ於テ殊ニ甚シク政府ハ償還ノ時期方法等ヲ自ラ規定シ債權者ノ容喙ヲ許サルノ必要益大ナルヲ見ルニ足レリ彼外國債ヲ以テ絕對ニ有害ナルモノトシ之ヲ非難スル者多カリシハ當時ノ國債制度ニ於テ又故アリト謂フ可キナリ

消費國債トハ重ニ戰時事變ニ一時ニ消費セラレ之ニ應ス可キ有形的收入ノ存セサルモノニシテ他ノ收入ニ依リテ之カ償還ヲ計ル可キモノナリ所謂國民ノ負擔ヲ増スコト大ナルモノニシテ貯蓄國債及ヒ固定國債ト對シテ用ヒラル

貯蓄國債トハ又事業國債或ハ間接抵當國債ト稱ヒラレ其國債ノ消費ニ伴ヒ直接ニ政府ノ收入ヲ増シ間接ニ人民ノ幸福ヲ增進スルモノナリ故ニ償却ノ方法期限等之ヲ豫定シ易キモノナリトス

固定國債ハ又借換國債ト云ヒ財政整理ノ爲メ流動國債ヲ固定國債ニ變更シタルモノナリ蓋シ流動國債累積シテ行政上ノ處分ニ依リテ之ヲ整理スルコト能ハサルトキニ行ハル隨テ其當初ノ其用途ハ重ニ年々行政上ノ費用ニ支出セラレシモノニシテ支出ニ應ス可キ收入ノ隨伴セサルコトハ消費國債ト其趣ヲ一ニセルモノナリ

十九世紀ニ至リテ各國皆國債ヲ募集スルニ當リ先ツ債權者ノ容喙ヲ禁シ償還期限ヲ長クシ財政上ノ緩急ニ應シテ辨濟スルノ主義ヲ執リ彼ノ減債基金法ノ如キモ此段楷ニ於ケル一一ノ方便トシテ政府ノ信用扶持ノ爲メニ用ヒラレ記名ノ制ニ依リテ債權者ノ権利ヲ確保セラレタリ爾後信用經濟ノ發達ニ伴ヒ減債基金法ハ廢セラレ無記名ハ記名ニ代リ擔保又ハ花札附ノ制廢セラレ償還期限ハ漸次延長セラレ遂ニ償還期限ノ長短ハ又應募力ヲ左右スルノ力ナク所謂無期ノ國債ト云ヒ永久ノ國債ト稱セラルモノノ認メラル、ニ至レリ

## 第二項 有期確定國債

有期確定國債ハ大別シテ割増國債年金國債及ヒ定期國債ノ三種ト爲ス

## 甲、割増國債

割増國債ハ必シモ無期定確國債ニ適用スルコト克ハサルモノニ非スト雖モ通例有期確定國債殊ニ比較的短期ニシテ少額ナル國債ニ適用セラル、モノニシテ元金及ヒ利子ノ償還支拂ノ外籤札ヲ附シ其當選者ニ利拂ノ際別ニ金額ヲ付與スル國債ニシテ其體様ニ至リテハ種別甚タ多シト爲ス割増國債ニ對スル消極論者ハ此ヲ三種ニ分ツコトヲ得道徳上ヨリ觀察セル消極論者法徳上ヨリ觀察セル消極論者及ヒ財政上ヨリ觀察セル消極論者是ナリ道徳上ヨリ觀察セル消極論者ハ割増國債ハ勉強儉約才能ノ外人民ヲシテ富ヲ得ルノ道アルコトヲ指示スルモノニシテ投機心ヲ誘導スルモノナリト云フニ在リ彼ノ「フランクリン氏カ勞力者ニ告ケシ語即チ人アリ汝ニ勉強ト儉約ニ由ラスシテ富ヲ得ルノ道アリト教示セハ之ヲ以テ汝ニ毒ヲ與フルモノナトセヨ」ト云ヘルカ如キ又此精神ヲ表彰スルモノニシテ道徳上復一點ノ非議ヲ容ル可カラサルモノナリ

法律上ヨリ觀察セル消極論者ハ抽籤ニ依リテ射利ヲ爲サシムルハ文明國ノ法

文上明カニ禁スル所ナリ政府カ割増國債ヲ發行シ又ハ此カ發行ヲ許スハ自ラ刑法ノ正文ニ悖戾スルモノナリト云フニ在リ蓋シ富籤及ヒ之ニ類似セルモノハ其掛金少ナク當籤金ノ不平均ナルニ從ヒ廣ク社會ニ流行シテ其大多數ハ落選ノ爲メ自己ノ貯蓄ヲ消耗シテ恒心ヲ失ヒ投機ノ惡風上下ニ浸潤スルニ至ルモノナリシゲアリエ」氏ハ千八百七十年佛蘭西上院ニ於テ報告セル一部ニモ富籤ハ第一多數ノ利益ヲ剥奪シ僥倖ニ由リ之ヲ少數ニ與フルモノナリ第二、籤札發行者ト其買入人トハ平等ノ地位ヲ占ムル能ハス其利益ヲ得ルノ機會ハ發行者ニ多ク籤札買入人ニ少シト云ヘリ

千八百三十六年ノ佛蘭西法律第二條ニハ富籤ヲ以テ僥倖ヨリ出ツル利益ヲ與フル所ノ動産不動産若クハ商品ノ賣買及ヒ其他一般ニ僥倖ヲ以テ公衆ニ利益ヲ得可キ望ヲ置カシムル所行ハ總テ之ヲ富籤ト認メ一切之ヲ禁止ストアリ(我國現行刑法二六二條參照)財政上ヨリ觀察セル消極論者ハ濫用ノ弊害大ニシテ且此カ管理ニ困難ナリト云フニ在リ蓋々多少人民ノ僥倖心ヲ利用スルコトハ頗ル便利ニシテ所定ノ需

要額ヲ容易ニ收メ得可キニ由リ濫用ノ極所謂法文禁制ノ純然タル富籠ト同一ノ現象ヲ呈スルニ至ルコトアリ彼土耳其之鐵道會社發行ノ籠札附社債ノ如キ一口ノ當籠二十四萬圓ノ巨額ニ上リ又バーレタ府ノ地方債ノ如キモ掛金僅ニ八圓ニシテ無利子トシ一方ニ當籠金ヲ不當ニ大ナラシメシカ如キ共ニ濫用ノ極ニ失セルモノニシテ一方ニハ國民ノ授機心ヲ挑撥ニ一方ニハ不公平ナル富ノ分配ニ由リ多數ノ失產者ヲ生セシムルノミナラス政府ハ信用ヲ失墜シ將來財政ノ伸張力ヲ絕對ニ抑壓スルニ至ルモノナリ信用經濟ノ發達セル國民ハ割増制度ナルモノハ不信用ヲ自白セルモトシ却テ募集ニ應セサルヲ例ト爲スニ至ルハ既ニ現時英國等ニ於テ見ル所ナリトス

割增國債ノ管理上困難ナリト云フハ其取扱方法ノ錯雜ヲ極ムルノミナラス巨額ノ國債ハ五十年百年ヲ期シテ償還ヲ丁ル能ハサルモノアルニ其間ニ便宜借換ヲ爲ス可キ好機ニ際遇スルヤ之ニ應スルコト克ハサルノ不利アリ是レ當初ヨリ低利ヲ以テ募集シ利子ノ外ニ尙ホ割増金ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果ニシテ巨額ノ國債ニ割増法ヲ採用ス可カラスト爲ス理由又此ニ存ス

以上ハ割増國債ノ消極論ノ大要ナリトス固ヨリ割増ノ性質タルヤ道德ノ原則ニ違背セル變則ノ手段ニシテ若シ其方法ニシテ宣シキヲ得サレハ其害毒ノ恐ル可キ又一財政問題トシテ默過ス可キモノニ非ス然レトモ其額巨大ニ失セス其方法ニシテ宜シキヲ得シニハ又絕對ニ非難ス可カラサルモノニシテ以テ間接ニ下級人民ノ勤儉貯蓄ヲ獎勵スルノ効果ナシト爲サス所謂道德上及ヒ法律上ノ非難ヲ事實ニ於テ之ヲ防遏ナシ得サルニハ非ス即チ此等ノ弊害ヲ避ク可キ重ナル方法ハ大凡次ノ如シ

第一、割増附ノ公債證書ニハ必ス全般ニ利子ヲ附ス可シ但一方ニ割増金額ヲ支フル範圍内ニ於テ成ル可ク通例ノ歩合ト差異ノ少ナキコトヲ要ス

第二、當籠ノ數ハ成ル可ク多クシテ其一個ノ當籠額ノ巨額ナラサルコトヲ要シ一方ニハ割増金額額ハ其割増國債ノ利子ノ低下ナルニ由リ生スル利得額ヲ超過セサルコトヲ要ス

第三、元金ノ償還ハ必ス拂込高日リ下ルコトナキヲ要ス

第四、割増抽籤ノ度數ハ一年二回ヲ超ユルコトナキヲ要ス

第五、割増國債ノ總額ハ巨大ニ失セス且其償還期限ハ長期ニ亘ラサルコトヲ要ス

要之割増國債ハ國債ノ常道ニ非シテ一時臨機ノ一方便タリ英國ニ在リテハ今世紀ノ初期ヨリ全ク廢棄セラレ普國ニ在リテハ千八百五十五年以後復此國債ノ發行サレシヲ聞カヌ佛伊兩國ニ於テ猶ホ行ハル、モノ、如キモ各國ヲ通シテ漸次屢絶ニ赴クモノ、如ク我國ニテハ近時勸業銀行ニ割増附社債ノ發行ヲ認メシ外復其例ヲ聞カス其方便ニシテ時ト處ニ依リ絕對ニ非議ス可キモノニ非サルモ唯一時ノ手段トシテ最モ此カ方法ニ付キ慎重ノ措置ヲ執ル可キコト論ナキナリ

## 乙、年國債

年金國債トハ政府カ借入タル一定ノ金額ヲ償還スルニ際シ其債權者ニ利子ト元金ヲ區別スルコトナク元利ヲ込メタル金高ヲ年賦ヲ以テ償還スル國債ナリ』

年金國債ハ其元金ト利子ヲ區別セサル點ニ於テ他ノ國債ヨリ分ナテ之ヲ論述

スル者専カラス然レトモ元金ト利子ヲ區別スルノ有無ハ流動確定ノ二國債ノ圈外ニ置クノ必要ナキヲ以テ予ハ此ニ確定國債中ノ有期國債ノ一部ニ編入シタリ定期年金ノ有期國債タル可キハ固ヨリ異論ナキノミナラス終身年金モ永久國債ト政府カ財政ノ緩急ニ從フテ元金ヲ償還スルコトヲ得永久ニ償還ノ義務存在セサル點ニ於テ全ク其性質ヲ異ニシ唯其償還ノ最終期限カ不確定ナルニ過キサルヲ以テ共ニ一種ノ定期定額國債ト視ル可キモノナレハナリ

年期國債ヲ分チテ終身年金及ヒ定期年金ト爲ス

年金年賦ノ方法ハ定期年金ノトキハ其定期ノ期間ヲ標準トシ終身年金ノトキハ死亡生残表ニ據リテ一定ノ期間ヲ標準トス故ニ今定期年金ノ約定期間ヲ十年又ハ終身年金ノ請求者五十歳ニシテ十年間生存ス可シト豫定セル場合ハ債權者ハ其債權成立ノ年ヨリ次ノ比例ヲ以テ年賦額ヲ受取ルコトハ爲ル可シ

第一年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ九ノ利子

財政學

## 第三章 年金ノ十分メ一及ヒ元金ノ十分ノ八ノ利子

然レトモ此方法ハ政府ノ手數ヲ増スノミナラス債權者モ毎年額ノ差異アルヘ好マサル所ナル可キヲ以テ通例右表ノ年々遞減スル利子ノ總額ヲ元金ニ加算シ此ヲ十分シテ毎年一定額ヲ支拂フ例ト爲セリ

## 乙ノ一 終身年金國債

終身年金國債ハ其債權者ノ終身間年々元利ヲ込メタル一定ノ年賦金ヲ支拂フ國債ニシテ其債權者ノ死亡カ豫定期限ヨリ先ツヤ否ヤニ由リテ損益ノ一定セナルモノナリ此國債ハ子孫ニ財產ヲ残スコトヲ要セス年々一定ノ金額ヲ得テ餘命ヲ送ラントスル等ニ便利ナル方法ニシテ殊ニ「トンチン」法ニ至リテハ多少僥倖心ヲ利用シテ往時盛ニ行ハレタルモノナリトス然レトモ近時一般ニ政府及ヒ民間ニ貯金ノ機關設備セラレ殊ニ生命保険ノ制行ハルニ及ヒ漸次其跡ヲ絶タニ至リ近時終身年金ノ變形トモ觀ル可キ政府ノ生命保険法ニ由リ其殘影ヲ残スニ遇キス

英國ニ於テハ「ビクト」以前ニ盛ニ行ハレ殊ニ「ウカリヤム」第三世ヘ百磅アーチナルモノアリ此法ハ同年齢ノ人々集メ之ヲシテ同一ノ年金ヲ有スル年金證書ヲ購買セシメ政府ハ常に年々一定ノ年金ヲ其加入者ノ全滅スルマテ支拂フモノナリトス故ニ加入者ノ年ヲ逐フテ死亡シ其數ヲ減スルニ從ヒ其生残者ノ受領スル分頭額遞増スルモノトス此方法ハ第十七世紀伊太利ノ銀行家ローレン・トンチンノ意匠ニ係ルモノニシテ英佛各國ヲ通シテ盛ニ行ハレシモノナリ但此「トンチン」法ハ財政學上ノ價值ヨリモ死亡生残表ノ根原トシテ人口統計ニ密接ナル關係ヲ有シ統計學上最モ重要ナルモノトス

「トンチン」法ノ實例ヲ一々此ニ列舉スルハ煩雜ニ堪ヘサルヲ以テ此ニ英佛二國ニ於ケル「トンチン」法ノ重ナル場合ヲ摘記スルニ止ム可シ

佛蘭西ニテハ路易十四世ノ朝千六百八十九年及ヒ千六百九十六年ニ「トン

チノン法ヲ行ヒシニ千七百二十六年ニハ唯一婦人ヲ残スニ至レリ此婦人ハ九十六歳マテ生存シ上述第一及ヒ第二ノ「トンチンニ」各百二十圓ヲ拂込ミ一人ト爲リテヨリニ萬九千四百圓ノ年金ヲ受クルニ至リタリ  
英國ニ於テ千六百九十二年千七百六十六年及ヒ千七百八十九年ノ三次ニ「トンチン法ヲ行ヒタリ但死亡生殘ノ統計明カラサルヨリ成功セス却テ愛蘭ニ於テ千七百七十三年同七十五年及ヒ同七十八年ノ三次ニ行ヘル「トンチン」法其効ヲ奏シタリ

## 乙ノ二 定期年金國債

定期年金國債トハ政府カ其債權者ニ所定ノ期間年々元利ヲ込メタル一定ノ年賦金ヲ支拂フ國債ニシテ英國ニ於テ最モ盛ニ行ハレシモノニシテ其最長期間ハ九十九年ナリキ蓋シ定期年金國債ノ利子ハ普通國債ノ利子ヨリ多キヲ例ト爲シ又其期間ノ長短ニ依リテ相異ナリ是レ本項緒論ノ際叙述セルカ如ク年々等ノ額ヲ支拂フヨリ生ヌル當然ノ結果ナリトス

定期年金ハ其債權者ノ生死ヲ問ハサルモノナルヲ以テ一方ニハ此カ自由ノ賣

ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ海難者クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス船舶法第二條第三條又彼ノ特別輸出港規則ニ於ケル特別輸出港ニハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ雇入ヲナシタル場合ニ於テノミ始メテ外國船舶ハ入港スルコトヲ得(同規則第四條又航海獎勵法ニ依ル獎勵金ハ日本船舶ノミ授與セラルヘキ所ノモノナリ)同法第一條

四、外國製造ノ船舶ト日本製造ノ船舶トノ區別ハ私法的權義ノ上ニハ大ナル必要ナシト雖モ造船獎勵ノ點ヨリ云ヘハ大ニ其必要アリ即チ造船獎勵法第一條ニ依ルニ該獎勵金ヲ受クルモノハ日本製造船舶ノミニ限ルナリ又航海獎勵法ニ依ル獎勵金ノ授與モ日本製ノ船舶ヲ以テスル航海ト外國製ノ船舶ヲ以テスル航海トニ因リテ其割合ニ非常ナル差異アリ(同法第四條同改正法律第五條第三項又外國ノ或立法例ニ於テハ船舶製造地ノ外國タルト自國タルト以テ船舶ノ國籍ヲ定ムル標準ノート爲スモノアリ然レトモ我國ノ如キ船舶製造ノ未タ盛ンナラサル國ニアリテハ斯ル立法ハ決シテ採用スルコトヲ得ス

五、船舶ヲ其構造ニ依リテ西洋形船舶ト日本形船舶トノ二種ト爲スヘシ二者ノ構造上ニ於ケル重要ナル差異ハ左ノ三點ニ在リ即チ洋船ニハ第一ニ適當ナル距離ニ<sup>ノレ</sup>筋材ヲ供ヘ第二ニ船梁ヲ供ヘ之ニ甲板ヲ張リ第三ニ<sup>ヌメバーベット</sup>船尾材ヲ供ヘテ之ニ舵ヲ垂ル然ルニ和船ニアリテハ總テ此三者ヲ缺ク而シテ洋船ハ其積量ヲ計算スルニ噸數ヲ以テシ和船ハ石數ヲ以テス前者ハ大船製造ヲ獎勵セラレ噸數ヲ増ス毎ニ獎勵金ヲ増加ス(造船獎勵法第三條然ルニ後者ニアリテハ五百石以上ノ大船ハ明治十八年七月八日第十六號布告ヲ以テ二十年一月一日ヨリ其製造ヲ禁止セラル所ナリ)

六、船舶ヲ其運轉力ニ依リテ漁船、帆船、櫓櫓船ノ三種ト爲スヘシ或ハ帆力ト櫓トヲ混用スルモノアルヘシト雖モ概言スレハ此三ツニ分タル海商法ノ適用ヲ受タルモノハ前二者ノ中ニシテ櫓櫓船ハ其適用ヲ受クス(新商第五三八條第二項)七、登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受タルコトヲ要スル船舶ト然ラサルモノトノ區別ハ新商第五百四十條ニ依リテ西洋形船舶ニアリテハ總噸數二十噸未滿、日本形船舶ニアリテハ積石數二百石未滿ノモノハ右ノ手續ヲ履

#### ムコトヲ要セサルナリ

### 第二節 海商法ノ適用ヲ受クル船舶ノ範圍

軍艦其他ノ公法的規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ヲ除キ其以外ノ私法的規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ニ付テ其大小及ヒ使用ノ目的ノ如何ヲ問ハス又其航行區域ノ何レタルヲ問ハス總テ一法一律ノ下ニ之ヲ支配セシムルコトハ立法上多少便宜ナキニアラス彼ノ英國ノ商船法ノ如キハ稍々此種ノ立法手段ヲ取り扱フ以テ運輸スル小船ヲ除クノ外總テノ船舶ハ皆其適用ヲ受クルモノトセリ又我舊商法モ商船其他ハ海船ト云ヒテ(舊商第八二四條海商法ノ適用ノ下ニ立ツ船舶ハ獨リ商船ノミナラス總テノ海船皆之ニ屬シ其範圍頗ル廣キモノアリ故ニ若シ此ノ如キ立法手段ヲ取ルトキハ我船舶法附則第三十五條ニ於テ海商法ノ準用、ヲ受クル船舶ノ範圍ヲ定ムルカ如キ規定ヲ設タルノ必要ナキニ至ルノ利益アリ

然リト雖モ英國ノ如ク或ハ慣習法ヲ以テ甘ンシ或ハ各種ノ單行法律ヲ發シテ社會ノ急需ヲ充シツ、アル時代ヘ格別苟モ法典ヲ編纂シテ成文法國ニ進マン

トスルニ當テハ一國ノ法律組織ノ全體ノ上ニ於テ各法ノ畛域地位本領ヲ明確ナラシムコトハ最モ須要ノ事ニ屬ス然ラスンハ國法全體ノ上ニ統一ヲ缺キ或ハ重複脱漏抵觸等ノ弊ヲ生スルノ處ナシトセス現ニ舊民法ト舊商法トノ如キハ即チ此病弊ニ陥リタルカ故ニ新民法并ニ新商法ノ編纂ニ付テハ最モ此點ニ意ヲ留メタルコトハ何人モ認識スル所ナリ即チ商法ノ地位ニ付テハ商行為ニ關スル民法ノ特別法ナリト云フ主義ヲ以テ終始一貫シニハ民法ト其性質ヲ同ブセシムル爲メニ私法的規定ノミヲ收メテ公法的規定ヲ省キ又其原則ノミヲ掲ゲテ手續規定ニ及ハスニハ民法ニ對スル特別法タルノ地位ヲ保ツ爲メニ民法ノ一般規定ニテ足ルコトハ總ラ之ヲ省キ三ニハ其性質トシテ商行為ノミニ關スル規定ヲ設クはレ實ニ商法立案ノ根本の方針ナリ故ニ海商編ニ至リテモ之カ適用ヲ受タル船舶ハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航行スルモノナラサルベカラス即チ第五百三十八條ハ規定シテ曰ク「其取扱い及賃料の規則」

本法ニ於テ船舶トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ」

本編ノ規定ハ端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉

## スル船ニハ之ヲ適用セス

ト故ニ海商法ノ適用ヲ受クル船舶ハ第一次ニハ其使用ノ目的ヲ以テ制限セラレ第二次ニハ其航行區域ヲ以テ制限セラレ第三次ニハ其大サヲ以テ制限セラル仍テ今其制限ヲ順次ニ左ニ説明スヘシ

一、商行為ヲ爲ス目的、商行為ノ何タルカハ新商第二百六十三條以下三個條ニ於テ之ヲ規定セリ其各行爲ノ詳細ナル説明ハ之ヲ他ノ講義ニ譲リ茲ニ之ヲ述ヘサルモ海商ニ重要ナル關係ヲ有スルモノハ運送ト保険トノ二行爲ナリトス而シテ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航行スル船舶ヲ實質的ニ例示スレハ其主タルモノハ運送營業人カ使用スル運送船ニシテ此他運取扱人、保險營業者、仲立人問屋代理商ノ如キ諸般ノ商人カ其營業ノ爲ミニ使用スル船舶新商第二六五條參照ハ皆此範圍ニ屬ス例へハ石炭商人力使用スル石炭船ノ如キ又ハ貿易商人カ自己ノ貨物ヲ輸出入スル爲ミニ使用スル船舶ノ如キ皆然リ現ニ三井物産會社ノ如キハ運送業ヲ營ム爲ミニアラスシテ自己ノ商品ヲ輸出入スル爲ミニ千噸以上ノ大船數艘ヲ使用シツ、アリ

新商第二修正案第十二議會提出(第五百三十五條ニハ本法ニ於テ船舶トハ營利ノ目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フト云ヘリ然ルニ茲ニ所謂營利ノ目的ナル文字ハ前述シタル商法立案ノ方針ト合スルヤ否ヤ邦語トシテ之ヲ商行為ヲ爲ス目的ノ範圍ニ限ルコト能ハナルカ如シ即チ商行為ヲ爲ス目的ニ非ナル漁船ノ如キモ其中ニ包含サルルノ處アリ殊ニ修正案ノ他ノ部分ヲ閲ミスルニ商行為トシテ目スヘカラサル相互保險第二修正案第四一七條新商第四一八條ニ該當ス等ノ規定ヲ包含セシメタルヲ以テ之ヲ見レハ前述ノ立法主義ハ必シモ絶對的ニ嚴守セラレタルニアラサルモノト解釋セサルヲ得ス此ノ如キ非難アリタルカ爲メニ確定新商法ハ右ノ營利ノ目的ナル文字ヲ改メテ商行為ヲ爲ス目的ト爲シ以テ商法立案ノ方針ヲ嚴守シタリ隨テ其結果トシテ船舶法第三十五條ヲ設ケテ海商法ノ準用ヲ受タル船舶ノ範圍ヲ定ムルノ必要切ナルニ至レリ吾人ハ立法者カ商法ヲ商行為法ナリトシテ其立案ノ方針ヲ嚴守シタルヲ贊スト雖モ何カ故ニ相互保險ノ規定ヲ商法中ニ保存シタルカ海商法ノ準用ヲ受タル船舶ノ規定ヲ船舶法中ニ移シタルト同シク商法中保險法ノ準用ヲ

受タル相互保險ノ規定ヲ何故ニ將來制定サルヘキ特別法タル保険法中ニ驅逐セナリシカヲ怪ムモノナリ或ハ特別法タル保険法ハ未タ制定サレサルカ故ニ一時ノ便法トシテ商法中ニ之ヲ保存シタリトノ辯護モ之レアルヘシト雖モ然ラハ何故ニ之ヲ商法施行法中ニ設ケサリシカ況シヤ施行法中ニハ保険ノ取締ニ關スル規定ヲ多ク包含セシメタルニ於テヨヤ)

尙ホ参考ノ爲メニ我商法ノ母法トモ謂ツヘキ獨逸法ノ此點ニ關スル規定ヲ述ヘンニ獨逸法ニ於テモ我第二修正案ノ如ク海商法ノ適用ヲ受タル船舶ハ營利ノ目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノト云ヒテ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海スル船舶ノ主タルモノナル漁船カ果シテ海商法ノ適用ヲ受タルヤ否ヤ我第二修正案ニ付テモ解釋上ノ疑タリシカ如ク獨逸法ニ於テモ亦疑ヲ生セリ然レトモ學者ノ説ハ概子皆其適用ヲ受タルコトニ一致セリ隨テ獨逸法ニテハ漁業モ亦商行為ニハ非ナルモ商事タルコトハ明カナルニ至レリ例ヘハ「マヨーヴエル」(獨商法逐條註釋五百五十三頁)曰ク始メ普國草案第三百八十五條ニハ海商法ノ適用セラ

ル 船舶ノ範囲ヲ定メ單ニ旅客又ハ荷物ノ運送ノミニ用ヰラル、船舶ノミヲ謂  
フト規定セルヲ第一讀回ニテ單ニノ文字ヲ除キテ稍々其適用ノ範囲ヲ廣メ第  
二讀回ニテヘ全然同條ヲ刪除セシカ故ニ今日ニテハ營利ノ目的ヲ以テ航海ス  
ルモノハ皆海商法ノ適用ヲ受タルコト、ナレリ隨テ漁船カ其適用ヲ受タルコ  
トハ論勿キ所ナリト(獨逸現行商法ハ普國草案ヲ基礎トシテ編纂セシモノナリ)  
「レウイス」モ亦荷物若クハ旅客ノ運送ヲ目的トスル船舶ノミナラス大海漁獵船  
及ヒ挽船ノ如キ皆其適用ヲ受クル所ナリト云ヒ「コサック」フ說モ亦同シ獨リ「シ  
ユレーデル」「ハゴールドシユミット」ノ商法雜誌中ニ於テ異說ヲ唱ヘ漁船カ海商法  
ノ適用ヲ受クヘカラナルコトヲ主張スル爲メニ珍奇ノ比喩ヲ取レリ曰ク漁船  
ハ航海ニ因リテ利益ヲ獲得スルモノニアラス若シ漁船ニシテ航海ニ因リテ利  
ヲ營ムモノト云フコトヲ得ルナラハ馬ニ乘リ病家ヲ見舞フ醫士ハ馬ニ乗ルコ  
トニ因リテ利ヲ營ムモノト云ハサルコトヲ得ス漁業者カ航海スルハ單ニ便宜  
ノ爲メノミ漁獵其者カ獲利ノ原因ニシテ航海ハ其目的タラス故ニ航海ニ因リ  
テ利ヲ營ム船舶ノ中ニハ漁船ハ包含スヘカラス換言スレハ海上運送業者ノ船

舶ノ如キ航海ニ因リテ利益ヲ營ムモノ・ミ之ニ屬スト此說ハ普國ノ第一草案  
ノ說ヲ固持スルモノニシテ獨逸文ヲ稽フルニ獨逸文ハ之ヲ直譯スレハ航海ニ  
因リテ利益ヲ營ム爲メニ供用スル船舶ト云フヘク我第二修正案ニ所謂營利ノ  
目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ト云フヨリハ稍々其意義ヲ異ニス隨テ獨逸  
法ニ付テハ「シユレーデル」ノ說必スシモ一概ニ之ヲ棄フヘキモノニアラナルモ  
ノ、如シ然ルニ「コサック」ハ一言ノ下ニ「シユレーデル」ヲ辨駁シテ曰ク漁業ニ付  
テハ航海ハ要素ナリ之ニ反シテ醫者ニ付テハ馬ニ乗ルコトハ要素ニアラス故  
ニ右ノ比喩ハ取ルニ足ラスト「コサック」ノ此辨駁ハ獨逸文ニ對スルヨリモ我第二  
修正案ノ法文ニ對シテ最モ能ク當レリ故ニ我第二修正案ノ法文ニ取りテハ漁  
船ハ無論其中ニ包含スルモノト謂ハサルコトヲ得ス蓋シ新商法確定ノ際ニ該  
法文ヲ改メテ商行為ヲ爲ス目的ト爲シタルハ之カ爲メナルヘシ隨テ我新商法  
ニ於テハ漁業カ商事ニ非ナルコトモ亦間接ニ決セラレタルモノト謂フヘシ  
以上商行為ヲ爲ス目的ヲ有スル船舶ニ付キ説明シタリ隨テ此以外ノ船舶ハ船  
舶法第三十五條ニ依リテ或ハ海商法ノ準用ヲ受タルコトアルモ之カ適用ヲ受

タルコトナキナリ然レトモ稀ニハ其適用ニ關シテ疑フ生スル場合ナキニアラ  
仍テ今其適例二三ヲ示スヘン例へハ運送營業者ノ所有船舶ヲ政府ニテ貸借  
リシ之ヲ公用ニ供スル場合即チ所謂御用船ノ如キハ船舶所有者ノ傍ヨリ觀察  
スレハ自ラ船舶ヲ航海ノ用ニ供シテ利益ヲ收ムルモ他人ニ之ヲ貸貸シテ其使  
用料ヲ收ムルモ共ニ收利ノ目的ニ供スルコトハ同一ナルカ如キ觀アリト雖モ  
法文ハ商行為ヲ爲ス目的ヲ有スルコトト航海ノ用ニ供スルコトヲ獨立シタ  
ル二個ノ要件ト見スシテ二者相關連セルモノトシ航海ノ用ニ供スル目的ハ必  
ス商行為ヲ爲スコトニ在ラサルヘカラスト爲シタルカ故ニ一旦御用船ニ化シ  
タル後ハ海商法ヲ適用スヘカラサルナリ且ツヤ賃借人タル政府ハ賃借リシタ  
ル船舶ヲ必スシモ航海ノ用ニ供スルコトヲ要セス或ヘ之ヲ湖川港灣ニ繫留シ  
テ人馬ノ揚ケ卸シニ供シ或ハ軍糧ヲ貯フル倉庫用ニ供スルヤモ得テ知ルヘカ  
ラサレハナリ(尤モ日清戰爭中政府カ民間ノ船舶ヲ多ク使用シ所謂御用船ナルモ  
ノハ許多アリタレトモ其多クハ船舶全部ノ賃船ニシテ政府ハ船舶所有者トノ  
間ニ賃船契約(一種ノ運送契約)ヲ締結シ之ヲ使用シタルニ過キス此場合ニ於テ

ハ該船舶ハ名ハ御用船ナルモ依然トシテ海商法ノ適用ノ下ニ立フコト勿論ト  
云フヘシ而シテ予カ前述シタル政府カ船舶所有者トノ間ニ船舶賃貸借契約ヲ  
締結シ之ヲ賃借リシテ使用シタル所謂眞ノ御用船トモ謂ツヘキ場合ハ極メテ  
稀ナリト云フ)

又右ノ例ト反對ニ政府所有ノ船舶ヲ一私人カ賃借リシテ商行為ヲ爲ス目的ヲ  
以テ之ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ海商法ノ適用ヲ受クルコト固ヨリ論無シ  
然レトモ政府所有ノ船舶ハ他ノ法令ノ支配ヲ特ニ受タルコトハ之レアルヘシ  
又一船舶ニシテ一部ハ商行為ヲ爲ス目的ニ供シ一部ハ公用ニ供スルコト之レ  
アルヘシ例へハ政府カ船舶所有者ニ直接ニ命令シテ定期若クハ不定期ノ航路  
ニ付キ其郵便事務ヲ取扱ハシムルカ如キ是ナリ小包郵便ノ行ハルニ至リテ  
ハ之カ爲メニ船内ヲ使用スル部分モ亦多カル(シ夫ノ地方ニ於ケル三等郵便  
局長若クハ郵便物受取所員ハ實際ニ於テハ郵便事務并ニ郵便物遞送ノ請負人  
タルニ相違ナシト雖モ表面上ハ立派ナル官吏ニシテ上級官廳ノ下ニ立チ其事務  
ヲ行フ恰モ之ト同視スヘキ命令ヲ船舶所有者カ有スル場合是ナリ若シ政府ニ

於テ船體ノ一部ヲ借切リニシ郵便事務官ヲ之ニ乗込マシメ其事務ヲ執行スルトキハ是レ船舶一部ノ備船ニシテ單ニ運送契約ヲ結ヒタルニ過キサルカ故ニ船舶所有者ノ側ヨリ見レハ同シク商行爲ノ目的ニ供スルコトヲ失ハスト雖モシテ其事務ヲ執ラシムルトキハ是レ公用ト私用トヲ同一船ニク取扱フモノト云フヘキナリ此場合ニ於テハ其公用ニ供スル部分ニ付テハ政府ノ命令ハ海商法ニ對シテハ特別法令タルノ位置ニアルカ故ニ海商法ニ先チテ適用セラルヘク若シ共同海損等ヲ生ジタル場合ニ公用物モ同シク其損害ヲ分擔スヘキヤリヤハ其特別法令ニ依リテ決スヘキナリ

二、航海ノ用ニ供スルコト 廣義ノ船舶トハ水上航行ノモノヲ云ヒ其中ニ就テ海商法ノ適用ヲ受クルモノハ海上航行ノ船舶ニ限ル然ラハ海上ノ範圍ハ如何地理學上ニ所謂海ハ之ヲ決スル幾分ノ参考トハ爲ルモ必シモ之ノミニ依リテ決スルコトヲ得ス例ヘハ支那ノ長江筋ノ如キハ地理學上未だ之ヲ海ト稱スヘカラサルモ大船巨舶ヲ浮フルニ足ル故ニ抽象的ノ一定ノ標準ヲ見出シテ以

テ海上ノ範圍ヲ定ムルコトハ頗ル困難ナリトス故ニ或ハ航海ノ範圍ハ事實問題ナリト云ヒ或ハ海上ト國內水上トノ區別ハ慣習ニ依リ一定セリト云フモノアリト雖モ獨逸ノ如キハ千八百六十七年十月二十五日ノ法律ニ依リ列舉的ニ航海ノ範圍ヲ定メタリ我國ニテモ航海業并ニ海上保険業等未タ十分ニ進歩セス航海ノ範圍ニ付キ未タ確タル慣習成立セス故ニ海上ノ範圍ヲ單ニ事實問題ノミニ一任セハ後日ノ紛争ヲ生スルコトナキヲ保セス仍テ商施第百二十二條ニ於テ湖川港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣ヲシテ之ヲ定メシムモノトシ間接ニ海上ノ範圍ヲ決定セシムモノトシタリ現行ノ明治二十六年十月二十日遞信省令第十八號西洋形船舶検査細則第七條及ヒ第八條ハ船舶検査ニ關シ外國、内國、近海、平水ノ四航船ヲ區別シ各航船區域ヲ定メタリ之ト類似ノ方法ヲ以テセハ何レノ區域ハ海上ニシテ何レノ區域ハ國內水上ナリト云フコトヲ定メ得ヘキカ如キト雖モ我國ノ航海業モ漸々進歩シ世界萬國ノ諸港ノ間ニ航路ヲ開クニ至リテハ地球ノ全面ニ付キ海上ト湖川港灣トノ範圍ヲ區別セラルヘカラス是レ實ニ容易ノ業ニアラス故ニ航海業ノ進歩スルニ從テ各地方ノ

必要ニ應シテ順次ニ之ヲ定ムルカ又ハ若シ悉ク之ヲ定メ能ハサルトキハ他ハ慣習ニ一任スルノ外其途アラサルナリ  
 三、端舟其他権利ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ権利ヲ以テ運轉スル舟  
 ノ小舟ハ通常湖川港灣ニ於テ航行スルニ止リ遠ク本國ヲ離レテ外洋ニ航スルモノニアラス其船體モ亦小ニシテ能ダ風波ニ堪ヘ海上百種ノ偶變及危險ヲ凌クノ力アルモノニアラス然ルニ偶々航海ノ用ニ供シタルカ爲メニ其上ニ生スル法律關係ニ付キ海商編ノ特別規定ヲ適用スルハ事端繁激ニ失シテ不便ニ堪ヘス例ヘハ船舶所有者并ニ第三者ニ對スル船員ノ規定ノ如キ共同海損ノ規定ノ如キ又ハ船舶債權者ノ規定ノ如キ總テ皆斯ル小舟ニ適用スヘキ性質ノモノニアラス故ニ斯ル小舟ハ之ヲ海商法適用ノ外ニ置ケリ仍テ之ニ依ル海上運送又ハ之ニ對スル保險ノ如キハ總テ商行為編ノ一般規定ニ依リテ之ヲ支配スヘキナリ又法文ニハ主トシテ権利ヲ以テ運轉ストアルカ故ニ或ハ帆ヲ舉クルノ準備アリト雖モ航行ノ主タル力カ権利ニアルトキハ海商法ノ適用ナキナリ故ニ海商法ノ適用ヲ受クル船舶ハ其構造ヨリ云ヘハ漁船及ヒ帆船ナリトス

尙ホ終リニ注意スヘキ點ハ商法ニ所謂船舶ノ範圍ハ第五百三十八條第一項ニ示ス所ノ全體ニシテ海商法ノ適用ヲ受クル船舶ハ之ヨリモ其範圍稍々狹クシテ即チ前記ノ小舟ヲ除去シタルモノ是ナリ

以上ハ日本船舶ニ對スル海商法適用ノ説明ナリ然レトモ外國船舶ニ付テモ亦之ヲ適用スル場合アルヘシ而シテ如何ナル場合ニ外國船カ日本法ノ適用ヲ受クルカハ是レ全ク國際私法上ノ問題ナリ國際私法上ヨリ云フトキハ船舶ハ所在地法ニ依ルヘキカ所有者ノ本國法ニ依ルヘキカ將タ船舶國法ニ依ルヘキカノ問題ヲ生ス然ルニ法例第十條ニ依ルトキハ動産ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ルト而シテ船舶カ動産タルコトハ先述シタルカ如ク最モ明白ナルカ故ニ直チニ之ニ依リテ支配スヘキカ現行法規ノ解釋トシテハ誠ニ然ルニト答ヘナルヘカラサルカ如シト雖モ船舶ヘ此點ニ關シテモ尙ホ不動產ノ如ク船舶國法ニ依リテ支配スルヲ以テ國際私法ノ通說ナリトス然ルニ法例ノ規定ハ國際私法ノ問題ヲ總テ網羅シ決定シタルモノニアラス商事ニ關スル國際私法ノ問題ハ概シテ之ニ依リテ決セラレス夫ノ外國ニ於ケル

手形行為ノ効力問題ノ如キハ商施第百二十五條ヲ設ケテ總カニ之ヲ決セリ仍  
テ海商其他ノ商事ノ國際私法問題ニ付テハ他日特別法令ニ依リテ決セラルル  
ノ期アルヘシト信ス

### 第三節 船舶ノ國籍

船舶ノ國籍ノ事ハ舊商法ニテハ之ヲ海商編中(第八二四條)ニ規定セリト雖モ其  
性質公法的規定ニ屬スルカ故ニ民法ニテモ國民分限ノ規定ヲ人事編中ヨリ削  
除シテ之ヲ特別法タル國籍法ニ讓リタルカ如ク新商法ニテハ船舶ノ規定ヲ船  
舶法ニ讓リタリ故ニ海商法ノ講義中船舶ノ事ヲ述フル必要ナキカ如シト雖モ  
唯後ニ船舶登記ノ規定ヲ述ヘントスル關鎖トシテ茲ニ一節ヲ設ケテ之ヲ説明  
スヘシ

船舶ノ國籍ハ之ヲ定ムル必要ハ萬々之レアルモ之ヲ定ムル標準ニ付テハ法理  
上固ヨリ一定セルモノナク畢竟一國ノ航海業造船業其他經濟上ノ狀況ニ照シ  
テ取捨伸縮シテ之ヲ決スヘキナリ而シテ之ヲ定ムルニ付テ從來三個ノ主義行  
ハレタリ

其一个船舶ノ製造地又ハ材料ノ產出地ノ自國タルト否トヲ以テ船舶ヲ決スル  
標準トスルモノナリ此主義へ畢竟造船獎勵ノ目的ヨリ出テタルモノニシテ自  
國製造ノ船舶ニ非スンハ自國船舶トシ之ニ伴フ特權若クハ保護ヲ與ヘス以テ可  
成自國ノ造船ヲ獎勵セントスルニ在リ斯ル主義ハ排外思想ノ煽ソナル中古ニ  
在リテハ最モ多ク行ハレタル所ニシテ啻ニ外國製造ノ船舶ヲ自國籍ノ船舶ト  
スルコトヲ許ナ、ルノミナラス又自國船舶ヲ外人ニ讓渡スコトヲ禁シタリ例  
ヘハ彼ノ佛國ノ如キハ千八百六十六年マテ佛國又ハ其所領地ニ於テ製造シタ  
ル船舶ニ非サレハ佛國船舶タルコトヲ得サルヲ原則ト同年該法律ヲ廢止シテ  
ルモ尙ホ外國製造ノ船舶ヲ輸入スルニハ積量一噸ニ付ニ「フラン」ノ稅金ヲ拂ハ  
シメ千八百七十二年ニ至リテハ更ニ其稅額ヲ増セリ而シテ千七百九十三年九  
月二十一日ノ法律ハ佛國製造ノ船舶ノ全部又ハ一部ヲ外國人ニ賣渡スコトヲ  
禁セシカ千八百十八年四月二十一日法律第二條ヲ以テ總カニ其禁ヲ解ケリ此  
ノ如ク此主義ハ造船獎勵ノ目的ヨリ古ヘニアリテハ能ク行ハレタリ然レトモ  
今日ニアリテハ有無相通シ長短相補フヲ以テ萬國交通ノ本旨トシ各國其貿易

ヲ獎勵スル時代ナルカ故ニ斯ル窮屈ナル主義ハ到底現時ノ經濟思想ヲ容ルベキ所ニアラス宣シク各國競フテ外國ノ船舶製造ノ注文ニ應シ又好ンテ船舶製造ヲ外國ニ依頼スヘキナリ殊ニ我國ノ如キ造船製鐵機械製造等未タ十分ニ進歩セサル處ニアリテハ斯ル主義ハ一日モ採ルヘカラス唯造船獎勵ノ目的ヲ以テ自國製造ノ船舶ヲ特ニ保護スル規定ノミヲ設クルコトハ今日ト雖モ之レアリ現ニ我國ノ航海獎勵法第五條ニハシンク帝國船舶ニ屬スル船舶タルニ係ハラス外國製造ノ船舶ニ對シテハ航海獎勵金ヲ與フル點ニ於テ日本製造ノ船舶ニ比シテ非常ナル差異ヲ設ケタリ三十二年三月公布航海獎勵法中改正法律第五條第三項)

其二ハ船舶長以下ノ乗組員ノ自國人タルト否トヲ以テ船舶ヲ決スル標準トスルモノナリ元來船舶長以下ノ乗組員タルヤ船舶所有者トノ間ニ成立スル委任若クハ雇傭契約ニ基キ其職ニ就クモノニシテ彼等カ該船舶運轉ノ職ニ任スルハ右契約關係ノ繼續スル間ノミ又其選任及ヒ解任モ契約ノ範圍内ニ於テ船舶所有者ノ自由ニ屬シ彼等ハ決シテ船舶ト共ニ永久終始スルモノニアラス又電信ノ

如キ通信技術ノ非常ナル進歩ニ由リテ船長ノ權限ノ如キモ漸次削減セラレ船舶長ハ殆ント船舶運轉ノミノ技術長タルノ觀アラントス殊ニ船舶港ニ於テ然リトス故ニ船舶長ト雖モ今日ニアリテハ左程重要視スヘキモノニアラス唯航海中ニアリテ船舶内ノ規律ヲ保チ船員法ニ認メラレタル範圍内ニ於テ權力ノ執行ヲ爲シ又特別法令ニ依リテ委任サレタル行政司法警察等ノ職務ヲ有スルノミ此等ノ公務ノ執行ヲ外國人船舶ニ委任スルハ稍々不可ナルカ如シト雖モ此種ノ事例ハ他ニ其類ニ乏シカラス例へハ名譽領事ノ如キ皆然リ殊ニ船員ニ付テハ船員法ニ於テ重大ナル責任ヲ負擔セシメ各場合ニ於ケル制裁ヲ規定シ又各特別法令ニ於ケル職務ニ付テハ其法令ニ於テ各制裁アリ又外國人船員カ日本船舶乗組員トシテ其職務ヲ取ルニ當リテハ外國ノ船員免狀ヲ有スルノミニテハ不可ナリ必ス日本人ト同一ノ試験ヲ受ケ船長其他ノ船員ニ適任ナルコトノ證明ヲ得ツルヘカラス是レ實ニ我現行法ナリトス仍テ外國人船員ヲ日本船舶使用スルコトハ左マテ重要視スヘキコトニ非ス要スルニ船員ノ内外人タルニ依リテ船舶ヲ區別スルハ稍々時勢ニ後レタルノ觀無クシハアラサルナリ例ヘ

ハ彼ノ佛國ノ如キ稍々古キ商法ノ行ハル、處ニアリテハ自國船タルノ要件トシヲ船長其他ノ船内ノ役員ハ總テ自國人ニシテ且ツ東洋航海ノ場合ノ外ハ水夫ノ四分ノ三ハ亦自國人タルコトヲ要スト規定スト雖モ近來學術并ニ實業ニ駛ケタル勢ヲ以テ進ム獨逸ノ如キ又世界航海業ニ最モ進歩セル英國ノ如キハ決シテ斯ル制限ヲ設ケサルナリ殊ニ我國ノ如キ航海業未タ十分ニ進歩セス船員ノ養成極メテ不十分ニシテ外國人船員ヲ雇入ル、必要最モ切ナル處ニアリテハ船員ノ内外人タルニ依リテ船籍ヲ定ムルカ如キハ愚ノ至リト云フヘシ故ニ船舶法ハ決シテ斯ル標準ヲ採用セスはレ吾人ノ贊スル所ナリ唯獨リ怪ムヘキハ外國人船員ニ我國ノ船員免狀ヲ許與スル手續是ナリ思フニ世界中航海業最モ發達シ船員ノ養成最モ完備シ船員ニ充溢セルハ英國ナリトス故ニ外國人船員ニシテ我國ニ雇入レラル、者ノ多クハ皆英人ナリトス然ルニ不幸ニシテ英國ニ於ケル現時ノ法制ヲ見ルニ日本人ニシテ英國ノ船員免狀ヲ得ルニ付テハ各其階級ニ應シテ或年限内英國船内ニ乗組ミ實地ノ練習アリタル後ニアラスンハ受驗資格スラモ之ヲ得ルコトヲ得サルナリ之カ爲メニ我國ニ於テモ國

際上ノ相互主義ニ基キ英國ノ船員免狀ヲ有スル者ニ直チニ日本ノ免狀ヲ許與セス尋常ノ試験ヲ受クルコトヲ必要トシタリ之カ爲メニ外國人船員ヲ雇入ルル不便言フヘカラス彼ニ在リテハ日本人船員ヲ雇入ル、必要毫モ之ナキニ反シテ我ニ在リテハ外國人船員ヲ雇入ル、必要刻下最モ切ナリ此ノ如ク彼我國狀ヲ異ニスルニ當リ殆ント同一法制ニ出テントスルハ稍々策ノ得タルモノニ非サルナキカ此事船籍問題ニ關係少キモ序ヲ以テ一言スルノミ  
其三ノ主義ハ船舶所有者ノ何人ナルヤラ以テ船籍ヲ定ムル標準トスルモノナリ船舶ニ付テ利害ノ關係最モ深キ者ハ所有者ニ若クモノナク所有者獨リ船舶ヲ處分スルノ權能ヲ有スルモノナリ故ニ所有者ニ依リテ船籍ヲ定ムルハ最モ其當ヲ得タルモノト云フヘシ而シテ近世諸國ハ概ネ此主義ヲ採用セリ今参考ノ爲メニ二三強國ノ立法例ヲ示メシ最後ニ我船舶法ノ規定ヲ述ヘン

獨國 船舶製造地若クハ船員ノ國籍如何ニ係ハラス專ラ船舶所有者ノ國籍ニ依リテ船籍ヲ定ム即チ千八百八十八年十二月二十三日帝國法律第二條ニ曰ク商船ハ聯邦人民ノ専有ニ屬スルトキニ限リ聯邦ノ旗章ヲ樹ツルコトヲ得帝國

版圖内ニ本據ヲ有スル法人登記ヲ經タル組合及株式會社并ニ帝國ノ版圖内ニ本據ヲ有シ且ツ其無限責任社員ノ全員カ帝國ノ國籍ヲ有スル株式合資會社ハ前項ノ一個人ト同一視スト而シテ船舶ノ所有權ヲ有スル株式會社又ハ株式合資會社ノ株式ハ外國人之ヲ所有スルトモ該船舶カ獨逸ノ國籍ヲ有スルニ害ナシ何トナレハ船舶ノ所有者ハ會社ニシテ株主タル外人ハ其共有者ニアラサレハナリ而シテ外國人カ獨逸船舶ヲ取得スルヨトハ毫モ制限セラル、所ナシ唯所有權ノ全部又ハ一部カ外國人ニ移轉スルト同時ニ該船舶ハ獨逸ノ國籍ヲ失フノミ又船員ノ國籍如何ハ船籍ニ關係ナキコト前述ノ如シト雖モ外國人ニシテ獨逸船舶ノ乘組員ドシテ使用セラル、コトヲ得ルニハ内國人ト同一ニ當該獨逸行政官廳ヨリ適任證書ヲ受ケサルヘカラス

佛國 千七百九十三年九月二十一日法律第二條ニ依レハ船舶ノ全體カ佛國人ニ屬スルニ非サレハ佛國船舶タルコトヲ得サリシナリ然ルニ千八百四十五年六月九日法律第十一條ヘ之ヲ改正シテ佛國船舶タルニハ少クトモ其所有權ノ二分ノ一カ佛國人ニ屬セザルヘカラサルモノトセリ故ニ佛國船舶ニシテ若シ

定ムルモノナリ又或場合ニハ組手形即チ同一手形數通ヲ振出スコトアリ此ノ如キハ寧ロ契約ニ因リテ成立スルモノト説明スルコト容易ニシテ一方行為説ニテハ殆ト説明シ難シ

右ノ如ク單獨行為説ニハ説明シ易カラサル二點アルニ拘ハラス今日益盛ニ流行スルモノハ左ノ理由アレハナリ

前ニモ一言シタル如ク手形ノ作成ニ關スル契約即チ意思ノ一致ハ手形成立以前ニ存スルモノニシテ振出入ハ其契約ニ因リテ手形ヲ作成スルコトヲ承諾シタル者ナルカ故ニ之ニ因リテ手形作成ノ義務ヲ負ヒ受取人ハ手形ヲ作成セシムル權利ヲ有ス然レトモ此契約ヨリ生スル權利義務ハ所謂手形上ノ權利義務ニ非ス其原因タル關係如何ニ從ヒ民法若クハ商法上ノ他ノ義務ト謂ハサルヘカラス手形ノ債務ハ法律ノ規定ニ從ヒテ手形ヲ作成スルニ因リテ直チニ成立スヘキモノナリ

凡ソ債務カ契約ニ因リテ成立スル場合ニ於テハ債權者ト債務者トノ間ニ於テハ互ニ相識ラサル者ナリト雖モ其申込ト承諾トヲ要スルカ故ニ債務者ニ於テ

ハ債權者ノ誰タルヲ知ラス又債權者ニ於テ債務者ノ誰タルヲ知ラサルカ如キ  
コトナシ彼此相信スルニ因リテ契約ハ成立ス手形債務ノ成立ハ全ク之ト異ナルモノアリ債權者ハ債務者ヲ信スルニ由リ手形上權利者タルコト疑ナカルヘシト雖モ債務者ニ於テ債權者ノ誰タルヤラ知ルコトヲ要セバ否實際上之ヲ豫知スルコトヲ得ナル場合ヲ通例トス何トナレハ債權者ハ手形ノ流通ニ因リ常に變動スルモノナレハナリ斯ノ如ク當事者ノ何人タルカラ知ラサル者ノ間ニ於テ契約ハ成立スヘシトノ説ハ頗ル事理ニ反スルモノト謂フヘシ且近世ノ手形ノ規定ノ立法例ニ依レハ契約説ヲ以テハ到底説明シ得ヘカラサルモノアリ他ナシ手形振出人ト其受取人以外ノ所持人トノ間ニ於テモ法律關係ノ成立ヲ認ムル規定即チ是ナリ若シ正當ニ之ヲ説明セント欲セハ手形受取人以後ノ所持人ハ受取人ノ權利ヲ承繼スル者ト云フニ非レハ振出人ハ受取人ノ介在ニ因リ順次其他ノ者ニ對シテ申込ヲ爲シタル者ナルカ故ニ債務ヲ負フモノナリト云フ外ナカルヘシ而シテ承繼説ハ偽造裏書ニ依ル善意ノ所持人カ振出人ニ對シテ有スル權利ノ存立ヲ認メシムルコト能ハス何トナレハ偽造裏書

人ノ前者ト偽造裏書受取人トノ間ニハ債權ノ移轉ナケビハナリ又後説ニ依ルモ契約説ハ論理ニ適セサルコトアリ何トナレハ手形受取人カ盜難、遺失等ニ因リ手形ヲ失ヒタル場合ニ其占有者カ偽造裏書ヲ爲シタルトキハ受取人ハ所持人ト振出人トノ意思ヲ一致セシムル爲メ即チ其間ニ契約ヲ成立セシムル爲メ仲介ノ勞ヲ取レリト謂フコト能ハサレハナリ而シテ此規定ハ一方行爲説ニ據ルニ非サレハ允當ナル説明ヲ得ルコト能ハサルヘシ

尙ホ契約説ニ據リテハ説明シ難キ一點アリ爲替手形支拂ノ引受ニ關スルモノ是ナリ蓋シ手形支拂ノ義務ハ手形面ニ支拂人ト指定セラレタルカ故ニ直ナニ發生スルモノニ非ヌ支拂人カ手形ノ引受ヲ爲シタルトキ始メテ其義務ヲ生スルモノトス今所持人カ支拂人ニ對シ手形ニ記載シタル金額全部ノ支拂ノ引受ヲ請求シタリト假定センニ支拂人ハ之ヲ拒ミ唯其一部ノミニ引受ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ所持人ハ之ヲ拒ム權利ナシ若シ手形上ノ債務ハ總テ當事者ノ契約ニ因リテ生スルモノトセハ支拂人一部ノ引受ハ所持人ニ於テ拒ムコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ契約説ハ少クトモ偽造裏書ノ場合及ヒ一部引

受ノ場合ニ於テ其論理ヲ貫クコト能ハス蓋シ單獨行為說ノ行ハル、所以ナリ。我手形法ハ如何ナル說ヲ採用シタルモノナルカヲ攻究スルコトハ學理研究ノ上ニ於テハ頗ル價值アル問題ナリ而モ如何ナル主義ヲ採用シタルカハ手形法文ニ之ヲ記載スヘキモノニ非ルコト勿論ニシテ立法ノ理由書トモ謂フヘキ商法參考書ニ於テモ之ヲ明示セス又法典調査會ニ於テモ嘗テ此主義ニ關スル論議ノアリタルコトヲモ聞カサレハ立法者ハ果シテ如何ナル說ヲ採用シタルヤヲ斷言スルコト能ハスト雖モ今試ニ改正商法ヲ觀ルニ引受ニ關スル第四百六十八條第二項ニ依レハ引受人カ手形ニ署名ヲ爲シタル時ハ直チニ引受カ成立シタルモノナリト云フ解釋フ容ルス如キ引受ハ一部ノモノト雖モ當然其効力ヲ生スルノ規定ノ如キ又爲造變造ニ關スル第四百三十七條及ヒ第四百三十八條ノ規定ノ如キハ契約說ヲ以テハ允當ナル說明ヲ爲スニ由ナキ等ノ法文ヲルヨリ推考スレハ改正商法ハ寧ロ單獨行為說ニ據リタルモノナリト謂フコトヲ得ヘキカ如シ然リト雖モ是レ仍ホ學者間ニ於ケル未定ノ一大問題ニ屬スル事項ナルヲ以テ容易ニ斷定スヘキモノニ非ルヤ言ヲ俟タス唯吾輩ハ單獨行為說

ハ改正商法ノ規定ノ基ク所ナルヘシト解説スルヲ以テ允當ナリト信スルニ過キサルナリ

以下手形ニ關スル商法ノ規定ニ付キ説明セントス

## 第一章 總論

### 第一節 手形ノ區別

手形ヲ區別シテ爲替手形、約束手形、小切手ノ三種ト爲シタルハ改正案ノ規定ナリ爲替手形ト約束手形トノ區別ハ手形行為ニ因ル權利ノ性質ニ依リテ之ヲ求ムヘキニ非ス蓋シ手形債務ハ形式ニ依リテノミ成立スヘキモノニシテ形式ハ即チ手形權利ノ發生スル原因ナリト謂フヘシ故ニ各手形ノ形式ニ依リテ之ヲ區別スルハ最モ明瞭ニシテ且簡易ナリト信ス爲替手形ニ於テハ形式上必ス支拂ノ委託ヲ示スコトヲ要ス支拂ノ委託ナキ爲替手形ハ曾テ之アラサルナリ若シ爲替手形ニ支拂ノ委託ナキトキハ爲替手形ト謂フコトヲ得ス但支拂ノ委託ハ事實上存スルコトヲ必要トヒス事實上支拂ノ委託アリシヤ否ヤハ爲替手形ノ成立ニ關係ナシ苟モ手形ニ支拂委託ノ記載アレハ縱令其記載ハ事實ニ反ス

ト雖モ爲替手形ノ形式ニシテ完全ナル以上ハ手形トシテ効力ヲ有ス勿論一面識ナキ者ニ對シ振出人カ手形ノ支拂ヲ委託スルコトハ極メテ稀ナルノミナラス殆ト其例ナキコトニシテ振出人ト支拂人トノ間ニ於テハ手形關係以外ニ於テ貸借其他ノ債務關係アルニ因リ委託ヲ爲スヲ通例トスルモノ此等ノ關係ノ存在ハ委託ヲ爲スノ要件ニ非ス而シテ爲替手形支拂ノ委託ナルモノノ徵標ハ我國ニ於テハ爲替手形ノ末文ニ御支拂可被下候又ハ御支拂可被成候下記載スルニ在リ

此ノ如ク爲替手形ニハ支拂ノ委託ヲ要スルカ故ニ其必然ノ結果トシテ手形形式上少クトモ三人格ヲ要ス手形ヲ作成シテ支拂ノ委託ヲ爲ス者即チ振出人手形支拂ノ委託ヲ受クル者即チ支拂人最初ニ手形上ノ權利ヲ享有スル者即チ受取人是ナリ而シテ通例ノ場合ニ於テハ振出人、支拂人及ヒ受取人ハ各別人ナルモ別人タルコトヲ要セス舊商法ニ於テモ又改正商法ニ於テモ振出人ハ自己ヲ支拂人又ハ受取人ト爲スコト隨意ナリ

右三人格ヲ具備シ且其記載事項ニシテ法律ニ適スルニ於テハ茲ニ手形債務ハ

發生ス然レトモ前ニモ述ヘタル如ク手形ノ支拂ノ義務ハ手形ニ支拂人ト記載セラレタルノミヲ以テ直チニ生スルモノニ非ス支拂人ノ支拂義務ハ所持人ニ對シテ支拂ノ引受ヲ爲シタル時始メテ生スルモノナリ故ニ支拂人カ引受ヲ爲サハル以前ニ於テハ決シテ手形支拂ノ主タル義務者ナシ手形所持人ハ振出人及ヒ其前者タル裏書人ニ對シテ條件附債權ヲ有スルニ過キス換言セハ手形カ支拂ハレサル場合ニ於テ振出人及ヒ其裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得ベキノミ

約束手形ハ全ク之ト異ニシテ所謂支拂ノ委託ナルモノヲ包含セス宛モ單純ナル債務證書ニ於ケルモノ、如ク二人格間ニ於テ成立ス實際ニ於テモ手形面上彼此ノ區別ヲ爲スヘキ徵標ハ極メテ明白ニシテ振出人ハ自ラ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載ス即チ支拂可申候フ文言ヲ以テスルヲ通例トシ決シテ他ニ支拂ヲ委託スルコトナシ故ニ約束手形ノ振出人ハ主タル債務者ニシテ償還義務者ニ非ス之ニ反シテ爲替手形ニ於テハ振出人ハ支拂ノ義務ナク單ニ償還義務ヲ負フニ過キス

前ニ述ヘタル如ク爲替手形ノ振出人ハ自己ノ支拂人ト爲スコトヲ得ルカ故ニ此場合ニ於ケル爲替手形ハ一見約束手形ト區別ナキカ如シト雖モ二者同一ニ非サルコト極テ明ナリ何トナレハ爲替手形ノ振出人ハ自己ヲ支拂人ト爲シタルキト雖モ支拂ノ引受ヲ爲スニ非サレハ支拂ノ義務ヲ有スルコトナケレハナリ故ニ爲替手形ノ所持人ニシテ主タル債務者ヲ得ントスルニハ振出人ナル支拂人ニ對シテ支拂ノ引受ヲ求ムル手續ヲ要スルモノトス

小切手トハ寄託其他ノ方法ニ依リ支拂人ヨリ金錢ヲ引出シ得ヘキ者カ之ニ對シ自己又ハ第三者ニ一定ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ委託スル證券ナルカ故ニ爲替手形ニ於ケルト同シク其成立ニハ必ス三人格即チ振出人、支拂人、受取人アルコトヲ要シ形式上三者殆同一ナリトス然レトモ其支拂ノ委託ヲ爲ス人ト支拂ノ委託ヲ受クル人トノ關係ハ爲替手形ニ於テ支拂ノ委託ヲ爲ス者ト其委託ヲ受タル者トノ間ニ存スルモノノ如クナルコトヲ得ス小切手ニ依ル支拂ノ委託ハ爲替手形ニ於ケルカ如ク何人ヨリ何人ニ對シテモ之ヲ爲シ得ルモノニ非ス小切手ノ支拂人ト爲ル者ハ寄託其他ノ方法ニ因リ其振出人ニ對シ金錢ヲ

拂出ス債務ヲ有スルカ若クハ之カ爲メ借用ヲ與フル者ナラサルヘカラヌ乃ナ  
小切手ニ於テハ其成立ト同時ニ振出人ト支拂人トノ間ニ於テハ他ノ法律關係ニ因ル金錢上ノ債務關係アルモノナリ故ニ法律上小切手ニハ支拂ノ引受ニ關スル規定ノ適用ナシ(第五三〇條第五三六條第五三七條參照)  
小切手ノ支拂人ハ必スシモ商人タルコトヲ要セサルモ普通ノ場合ニ於テハ其支拂人ハ銀行ナリ銀行ニ非シテ小切手ノ支拂人タル場合ハ實際上殆ト之レ無シ蓋シ小切手ノ用ハ商人又ハ其他頻繁ナル金錢ノ取扱ヲ爲ス者カ自ラ之ヲ保管スルコトヲ爲サス勞費ヲ省キ且安全ノ保管ヲ爲ス爲メ之ヲ銀行ニ委託シ其需要ニ應シ自己又ハ債權者ノ爲メ其保管金錢ヲ銀行ヨリ引出ス便宜ニ供スル場合特ニ多シ是レ實際ニ於テハ銀行營業人ニ非ル者カ小切手ノ支拂人タルコトナキ所以ナリ舊商法ニ於テハ支拂人ハ必ス銀行タルコトヲ要シ其他ノ着ハ支拂人ト爲ルコトヲ得サリシモ斯ル狹隘ナル規定ヲ存スヘキ理由ナキカ故ニ改正商法ニ於テハ此制限ヲ排斥シタリ第五三〇條是レ新舊法ニ於ケル差異ノ著キ所ナリ

以上ヲ以テ手形ニ於ケル三種ノ區別ノ概要ヲ説明セリ以下其特別ノ性質ニ付  
キ説明セントス

## 第二節 手形債務ノ特質

手形債務ノ性質ノ特別ナル要點ハ峻嚴ナル規定ニ依ルヘキモノナリト云フニ

在リ換言スレハ峻嚴ナル規定ノ支配ヲ受クルモノナルコト是ナリ左ニ其點ヲ

説明スヘシ

一 手形債務ハ峻嚴ナル形式ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス是レ其重  
ナル點ナリ既ニ總論ニ於テ述ヘタル如ク手形債務ハ書面ニ依リテノミ成立ス  
ルモノナルカ故ニ書面ナキ場合ニハ縱令如何ナル明確ノ意思表示アルモ所謂  
手形債務ハ成立スルコトナシ手形債務ノ成立ニハ法律ノ規定シタル形式ニ從  
ヒ手形ヲ作成スルコトヲ必要トス此規定ニ依リテ振出人カ其意思ヲ表示署名  
ヲ爲シタルトキ始メテ手形債務カ成立ス振出人ノ署名ハ自署ナルコトヲ要ス  
ルヤ言ヲ俟タス若シ其署名ニシテ真正ナルモノニ非サルトキハ振出人ニ對シ  
手形上ノ効力ヲ生スルコトナシ或ハ非難シテ曰ハシ手形ハ峻嚴ナル形式ニ依

リテ成立スルモノナリトスル以上ハ他人ノ偽造ニ係ル手形ニ付テモ其偽造セ  
ラレタル者ヲシテ善意ノ取得者ニ對シテハ有効ニ義務ヲ負擔セシムヘキ規定  
ヲ設ケサレハ手形ノ融通ヲ妨害スルニ至ラント然レトモ所謂手形ノ峻嚴ナル  
規定ヲ以テ此ノ如ク極端ニマテ適用スル必要ナシ何トナレハ手形ノ債務ハ形  
式ニ重キヲ置キテ成立スルモノナリトスルモ自ラ債務ヲ負擔スルノ意思ヲ表  
示セナル者ニ對シテモ債務ヲ負擔セシムヘキ理ナケレハナリ故ニ手形債務ノ  
成立ハ嚴格ナル形式ニ依ルト同時ニ其作成者ハ真ニ自己ノ意思ヲ表示スルヲ  
必要トス(第四三五條)手形ノ署名ハ必ス自署タルコトヲ要ス活字其他印刷方法  
ニ依ル記名ハ手形ヲ成立セシムル効力ナキモノトス尤モ手形ヲ振出ス者ハ事務  
ノ繁忙其他種々ノ障礙ノ爲メ自署スルコトヲ得サル場合ナシトセス若シ自署  
署名ヲ爲スコトヲ要スルモノトセハ斯ル障礙ノ場合ニハ手形ヲ振出スコト能  
ハサル不使アリトシ非難スル者ナキニ非サレトモ是レ全ク杞憂ニ過キス何ト  
ナレハ手形ヲ振出サント欲スル者カ若シ手形ニ自署スルコトヲ得ナルニ於テ  
ハ随意ニ代理人ヲシテ振出サシムルコトヲ得レハナリ代理人ヲシテ手形ヲ作

成セシムル場合ニ於テハ代理人ハ手形行爲ノ當事者ニ非サルコト勿論ナレバ  
 委任者ニ對シテノミ其効力ヲ生スルコトハ一般委任ノ場合ト異ナルコトナシ  
 然レトモ代理人ノ作成シタル手形カ本人ノ爲メニ有効ナルニハ手形面ニ代理  
 ノ旨ヲ記載セサルヘカラス諸君ノ既ニ知ラル、如ク改正商法ニ於テハ商行爲  
 ノ代理ハ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サ、ルモ代理ノ効力ヲ生スヘキ  
 モノトセリ第二六六條而シテ手形行爲ハ商行爲第二六三條第四チルモ之ニ依  
 ルヘキモノニ非ス手形行爲ニ於ケル代理ハ手形上明カニ其代理タル旨ヲ明記  
 スルコトヲ要ス若シ其記載ナキトキハ代理ニ由ルモノナル證據ハ如何ニ明瞭  
 ナルニ拘ハラス手形ハ代理人其者ノ行爲トシテ効力ヲ生スヘキモ第四三五條  
 本人ノ爲メニハ其効力ヲ生スルコトナシ第三四三六條是レ手形ハ要式的行爲ナ  
 リトノ結果ニ外ナラズ  
 以上述フルカ如ク法律ノ規定ニ依ル書面ノミニ因リテ成立スル手形行爲ハ各  
 獨立シテ一ノ手形行爲ヲ爲スモノナルヲ以テ手形ノ形式ヲ具備シタル手形ニ  
 因ル行爲ノ取消又ハ無効ノ事由ハ其他ノ手形上ノモノニ何等ノ影響ヲ及ホス

(六) 従テ價格ヲ損スルコトナクシテ自由ニ分割シ得ヘキモノナハコトヲ要ス  
 金屬ハ最モ善ク此性質ヲ具備スル物ニシテ毛皮、金剛石ノ如ク分割ニ由リテ  
 價格ヲ損スル物ハ貨幣タルニ適當セサルナリ

價格ノ變動ナキコト 貨幣ハ價格ノ標準トシテ現在ニ於ケル數多ノ貨物ノ  
 價格ヲ計量スル用ヲ爲スノミナラス價格ノ本位トシテ多少隔絶シタル期間  
 内ニ價格ノ大小ヲ計量スルノ用ヲ爲スモノナルカ故ニ時ノ經過ノ爲ニ其價  
 格ノ變動ヲ來サ、ル物ナルコトヲ要ス  
 (七) 認識シ易キコト 貨幣ハ交換ノ媒介トシテ日常ノ取引ニ際シテ授受セラル  
 、物ナルカ故ニ容易ニ其眞偽ヲ認識シ得ル物ナルコトヲ肝要トス例ヘハ金  
 銀ハ色澤、音味比重等ニ依リテ容易ニ他物ト識別スルヲ得ヘシ又認識シ易キ  
 程度ヲ増加シ且其他貨幣タル効用ヲ増加スルカ爲ニハ鑄造貨幣ヲ用キルヲ  
 便トスルニ至リタルヲ以テ貨幣ノ材料タルヘキ物ハ右ニ舉ケタル七ノ性質  
 ノ外鑄造ニ堪フルノ性質ヲ具備スルコトヲ要スルニ至レリ金屬就中金銀ハ  
 最モ善ク以上ノ性質ヲ具有スルヲ以テ文明ノ進歩ニ伴フテ人ハ金屬ニアラ

ナル他ノ貨物ニテ造リタル貨幣ヲ廢シ主トシテ金屬特ニ金銀ヲ貨幣トシテ  
使用スルニ至レリ。

#### 第四款 貨幣ノ鑄造法

貨幣トシテ用井タル、金屬ノ効用ハ鑄造ニ由リテ大ニ増加セラル、モノナリ  
金屬貨幣モ其初ニ當リテハ普通ノ商品ノ如ク授受ノ際其重量及純分ヲ鑑定シ  
テ取引セラレタルモノナレトモ其煩勞ヲ避ケンカタメニ第一ニ刻印ヲ施シテ  
其純分ヲ示スノ制ヲ採レリ例へハ我國德川幕府時代ニ行ハレタル撒花金ノ如  
キ支那ノ刻印シタル金ノ立方體ノ如キモノナリ夫ヨリ進ミテ現今流通スル貨  
幣ノ如ク刻印ヲ以テ重量及純分ノ二者ヲ保證シ之ヲ授受スル人ハ唯其數ヲ檢  
スルヲ以テ足レリトスルニ至リテ貨幣鑄造法ノ發明其完キヲ得タルモノナリ  
夫故ニ「ゼボンス民」ハ鑄貨幣ヲ左ノ如ク定議セリ

鑄造貨幣ハ表面ニ施ナレタル印象ノ缺損ナキコトニ據リテ其重量及純分ヲ  
知ラシムル金屬ノ塊圓ヲ云フ。

今日世ニ行ハル、貨幣ハ其形圓クシテ扁平ニ其重量ハ携帶ニ便ナルモノナレ

トモ古來人ノ用井タルモノ皆斯ノ如キモノニハアラサリシナリ例へハ我國ノ  
徳川幕府時代ニ行ハレタル額金ノ如ク四角形ナルモノアリ小判ノ如ク橢圓形  
ノモノアリ又十八世紀「エーデン」國ニ於テ用井シ鑄造貨幣ハ七インチ半ノ四  
角形ニシテ重量三磅ノ純銅板ナリシ如ク今日ヨリ此等ヲ見レハ種々ノ異形ニ  
シテ不便ナルモノヲ用井タリシナリ

貨幣ヲ鑄造スルニ付キ注意スヘキ點左ノ如シ

一 僞造ヲ防クト

二 貨幣ヨリ金属ヲ不正ニ取去ルコトヲ防クト

三 磨損ノ度ヲ輕減スルコト

四 形重量及價值ヲ一般ノ便宜ニ適セシムルコト  
偽造ヲ防クト方法ハ偽造ヲ爲サンニハ莫大ノ費用繁多ナル手數及精巧緻密ナル  
技術ヲ要スル等非常ナル困難アリテ容易ニ企テ及ハサラシムルニ在リ脱税シ  
易キ租税カ脱税セラル、如ク如何ナル嚴刑ヲ以テ威嚇スルモ偽造シ易キ鑄造  
貨幣ハ偽造セラル、モノナリ又鑄貨ハ其全面總テ印象ヲ充タシ其形狀ヲ變ス

ルコトナクシテハ金屬ノ質量ヲ減スルコト能ハサラシムルヲ要ス又鑄貨ハ合  
金其他技術上ノ方便ニ依リテ日常ノ取引ニ由リ磨损スル度ヲ減スルコトヲ要  
ス其形狀及重量ハ携帶ニ便ニシテ其價格ハ日常ノ取引ニ相當スルモノナルコ  
トヲ要ス又貨幣ノ價格ノ計算法ハ十進法ニ依ルヲ便トスルヲ以テ各種ノ鑄貨  
モ之ニ應シテ鑄造セラル、ヲ可トス

### 第五款 貨幣制度

金屬貨幣ニ關スル制度ニ四種アリ

一 秤量貨幣制度 (The System of Currency by Weight) トハ國家ハ單ニ秤量ノ制  
定ムルニ止マリ人民ハ金屬貨幣ヲ授受スルニ當リテ他ノ商品ヲ取扱フカ如  
ク各自貨幣ノ純分ヲ鑑定シ重量ヲ秤リテ取引スルモノワイフ此制度ハ鑄造  
貨幣制度發達ノ初期ニ行ハル、モノナリ而シテ今日ニ於テモ國際貸借ノ殘  
高ヲ決済スルカ爲メニ用ガラル、ニ當リテハ秤量貨幣制ニ依ルモノナリ

二 單本位制 (Single metal tender System) 純粹ナル單本位制ハ鑄造貨幣ノ初期ニ  
採用セラレタルモノニシテ國家ハ唯一種ノ金屬ヨリ成ル鑄造貨幣ノミヲ發

行シ此ヲ以テ法貨ト定メ法律上支拂ノ方便トシテ其額ニ制限ナク使用セシ  
ムルノ制度ナリ「スバルタ」ノ鐵錢支那ノ青銅錢前世紀マテ行ハレシ瑞典ノ銅  
板ノ如キ是ナリ此貨幣制度ハ貨幣トシテ採用スル金屬ハ一種類ニ限ルヲ以  
テ若シ賤金属ヲ採ルトキハ大取引ニ便ナラス貴金属ヲ採ルトキハ小取引ニ  
應スル鑄貨ヲ造ルニ便ナラス

三、複本位制 (Bimetalism) 二種若クハ二種以上ノ金屬貨幣ヲ鑄造シ孰レモ之  
ヲ法貨ト爲シ人民ハ其好ミニ應シテ孰レノ貨幣ヲ取リテ如何ナル金額ノ負  
債ヲ支拂フモ差支ナク而シテ各種ノ金屬ノ比價ハ法律ニ依リテ定マル制度  
トイフ例ヘハ英國ニ於テ西暦千三百四十三年ニ金一銀十二ノ比價ヲ以テ金  
銀二種ノ金屬貨幣ヲ發行シ孰レモ之ヲ法貨トシテ流通セシタルカ如キ是  
ナリ複本位制ニシテ各種ノ貨幣ノ比價ヲ以テ規定セス市價ノ變動ニ  
任スモノヲ平行本位制 (Parallel standards) トイフ複本位制ヲ行フ國ニ於テハ人  
民ヨリ孰レノ地金ヲ提供シテ造幣ヲ請フモ其需メニ應スヘキモノトス然ル  
ニ數種ノ金屬中或種類ノ金屬ノ鑄造ヲ中止スルコトアリ例ヘハラテン同盟

國力尙ホ金銀複本位制ヲ採ルニ拘ハラス銀貨ノ鑄造ヲ停止セルカ如シ此ノ如キ制度ヲ跛本位制(The limping standard)トイフ

四 條雜本位制(Complex segal tender system)トヘ或一種ノ金屬貨幣ヲ造リ此ヲ以テ本位貨ト爲シ支拂上無限ニ使用セラル、ノミナラス小取引ヲ便ニスルタメ他ノ金屬貨幣ヲ鑄造シ制限セラレタル範圍内ニ於テノミ法貨トシテ用井ラル、制度ナリ例ヘハ我國ニ於テハ金貨本位貨ニシテ無制限ノ法貨ナレトモ銀、白銅銅貨等ハ補助貨ニシテ其使用高ニ一定ノ制限アリ例ヘハ五十錢以下五錢迄ノ銀貨ハ一口ノ仕拂十圓迄白銅貨及銅貨ハ一口ノ仕拂一圓迄ヲ以テ限トシ其範圍ニ於テノミ法貨トシテ使用セラル、モノナリ

複雜本位制ハ千八百十六年以後始メテ英國ニ於テ採用セラレタルモノナリ此時ニ當リテ英國ニ於テハ金貨ヲ以テ本位貨トシ銀銅ヲ補助貨トシテ併用シタルナリ故ニ複雜本位ノ名義ハ元來單本位制ニ伴フテ補助貨ヲ併用スルノ制度ニ適用セラレタル名稱ナレトモ「ラテン」同盟諸國ニ於テハ金銀兩本位制ヲ取ルニ拘ハラス銀貨銅貨等ノ補助貨ヲ併用スルカ故ニ此ノ如キ國ノ制

度ハ複本位制ニシテ且複雜本位ナリトイフヲ得ヘシ

### 第六款 「グレシヤム」ノ法則

流通貨幣ノ磨損ニ由リテ各箇貸貨ノ間ニ多少重量ニ等差ヲ生スルモ其外觀略同様ナルトキハ通常人ハ少シモ意ニ介セシテ名義上ノ價值ヲ以テ授受スルモノナレトモ兩換商地金商銀行者等ハ同一ノ法定價值ヲ有スル貨幣ニシテ純分又ハ重量ニ等差アルヲ知ルトキハ其良シキモノヲ取リテ或ハ溶解シ或ハ輸出シテ利益ヲ得シコトヲ勉ム夫故ニ磨損シタル貨幣ノ流通スル時ニ當リテ十分ナル重量ヲ有スル新貨貨ヲ發行スルモ忽チ溶解セラレテ古キ貨幣ノミ獨リ流通スヘク又品位劣等ニシテ古貨幣ト同一ノ法定價值ヲ有スル新貨ヲ發行スルトキハ新貨幣ノミ獨リ流通シテ古キ貨幣ハ流通界ヨリ引き上ケラル、モノナリ貨幣ノ流通ニ關スル此法則ハ三百年前英國人サートーマスグレシヤム氏ニヨリ明瞭ニ説明セラレタリ此法則ヲ簡單ニ記述シタルモノアリ曰ク

惡貨ハ良貨ヲ驅逐シ良貨ハ惡貨ヲ驅逐スル能ハスト此事ヲ知ラヌシテ單ニ良貨ヲ發行シテ通貨改良ノ目的ヲ達セント欲レテ失

敗シタル例尠カラス此法則ハ同種ノ金屬貨幣ノ間ニ行ハル、ノミナラス複本位制ニ於ケルカ如ク二種以上ノ金屬貨幣並ヒ行ハル、場合ニモ此法則ノ効ヲ見ルコトヲ得ヘシ例ヘハ金銀複本位制ニ於テ五「フラン」ノ銀貨カ五「フラン」金貨ニ比シテ其真價低キトキハ銀貨ノミ流通シテ金貨ヲ流通界ヨリ驅逐スヘタ之ニ反シテ五「フラン」ノ銀貨カ五「フラン」ノ金貨ヨリ價高キトキハ金貨ノミ流通シテ銀貨ハ其影ヲ隱クスニ至ルヘキナリ、サレトモ其時ノ經濟事情ノ如何ニヨリ國內ノ取引ノ爲ニ一定額ノ通貨ヲ要スルモノナリ從テ流通貨幣ノ中ニ毀損若クハ其他ノ源因ニヨリテ其真價大ニ少ナキモノト雖モ其數ニ限アルトキハ良貨驅逐ノ勢力ニモ亦限アルカ故ニ良貨ト惡貨ト相並ヒテ流通スルモノナリ例へハ佛國ニ於テハ法定價値同一ニシテ真價遙ニ低キ銀貨カ金貨ヲ驅逐シ丁セシテ兩貨相並ヒテ流通スルハ銀貨ノ鑄造中止ニ由リ銀貨ノ分量ニ制限ヲ加ヘタルカ故ナリ

### 第七款 貨幣本位論

貨幣制度ニ關スル爭論ハ一國ニ於テ貨幣ノ材料トシテ用ニヘキ金屬ハ或一種

ニ限ルヘキモノナルカ或ハ數種ノ金屬タルヘキカニ關シテ起リタルモノニアラス現近文明諸國ニ於テハ孰レモ金貨銀貨銅貨等ヲ併用ス例ヘハ金貨ノミヲ用ヰルトセハ五圓ノ金貨スラ已ニ稍小ナルヲ覺ニ若シ一圓五十錢等ノ金貨ヲ造ラハ果シテ如何進シテ一錢五厘等ノ金貨ニ至リテハ僅ニ眼ニ見、手ニ觸ル、ヲ得ルニ過キサルノミ又銅貨ヲ唯一ノ貨幣ト爲ストキハ一圓銅貨ニシテ五百匁以上ノ重量アリ銀ハ其中間ニ在リ其不便稍少シト雖モ五圓ノ銀貨ハ大ニ過キ一錢ノ銀貨ハ小ニ過キテ日常ノ取扱ニ便ナラス是レ何レノ文明國ニ於テモ三貨ヲ併用スル所以ナリ然レトモ此三種ノ金屬貨幣ヲ皆無限ノ法貨トシテ用ヰルノ必要ナシ而シテ又何レノ國ニ於テモ銅貨ノ如キハ補助貨トシテ一定ノ制限内ニ於テノミ法貨トシテ使用スルモノナリ然ラハ他二種ノ貨幣ノ處置ハ如何二者共ニ無制限ノ法貨トシテ通用セシムヘキカ果タ一方ノミニ限ルヘキカ金銀兩本位制(即チ複本位制)ノ一ナリヲ採ルヘキカ金單本位制ヲ採ルヘキカニ付テ學者各見ル所ヲ異ニシテ相爭フ之ヲ貨幣本位論トイフ今若シ世界ノ他ノ諸國ト通商貿易ヲ爲ス或一國カ率先シテ金銀兩本位制ヲ採用スルトキハ其結果

果如何ナルヘキカ金銀兩金屬ノ法定比價ト市場比價トノ間ニ等差ヲ生スルトキハ兩本位制ハ之ヲ維持スルニ由ナシ然ルニ兩金屬ノ市場比價ハ需用ト供給トノ關係ニ因リ絶エス變動スルカ故ニ政府ハ之ニ應シテ絶エス法定比價ヲ變更セナルヘカラス若シ法定比價ノ改正ヲ爲サルトキハ金銀貨ノ中孰レカ一ハ法定ノ割合ニ比シテ輕キニ過キ一々法定ノ割合ニ比シテ重キニ過クルナルヘシ然ルニ「グレシャム」法則ニ依リ輕キ者惡貨ハ重キ者良貨ヲ驅逐スルカ故ニ實際國內ニ流通スルモノハ法定割合ヨリ輕キ一種ノ貨幣ニ限ルコト、爲ルヘシ是レ名ハ兩本位制ナリト雖モ實際ハ輕キ貨幣ノ交替本位制ナリトイハル、所以ナリ此例證トシテ最適當ナルモノハ一千八百三年以來ノ佛國ノ貨幣制度ナリ

佛國ハ一千八百三年三月二十八日ノ法律ニ依リ金銀兩本位制ヲ採用セリ此法律ニ依レハ銀「キログラムヲ二百フラン」ト爲シクルヲ以テ五フランノ銀貨ハ二十五グラムノ銀塊ナリ又「フラン」ノ銀貨ハ五グラムノ銀塊ヨリ成ル又當時ノ市價ニ鑑ミ金「キログラム」ハ三千一百フランニ當ルモノトシ五フランノ金

貨ハ一六一三「グラム」ヲ含ムモノト定メタリ即チ金銀ノ法定比價一ト十五半ト爲シタリ其後金銀ノ比價ニ多少ノ變動アリタレトモ佛國ハ能ク其幣制ヲ維持シタリ然ルニ一千八百四十七年ニカリホルニヤノ金銀一千八百五十一年ニ滌洲ノ金銀發見アリ是迄一年ノ金產額僅ニ一億フランナリシモノ今ハ進ンテ五六億フランニ増加セリ又一方ニ於テハ印度ト通商ノ發達ニ由リテ銀塊ノ印度ニ吸收セラレタル額甚タ多シ其結果トシテ二金屬ノ比價ニ變動ヲ來シ貴金屬ノ市場ニ於テハ金ノ一「グラム」ハ銀十五グラム半ニ當ラスシテ銀十五グラム乃至十四「グラム」ニ當ル當時英人ハ銀ヲ印度ヘ送ランカタメニ何レニカ銀ヲ求ムルノ必要アリ然ルニ倫敦ニ於テハ金「キログラム」ニ對シテ銀十四「キログラム」ヨリ餘分ニ求ムルコト能ハス然ルニ金「キログラム」ヲ巴里ノ造幣局ニ送リテ鑄造ヲ依頼スルトキハ三千一百フランノ金貨ヲ得ヘシ此ヲ同數ノ銀貨ト交換スルトキハ3100X5「グラム」即チ金「キログラム」ニ對シテ銀十五「キログラム」得テ大ニ利益ヲ得タリ又佛人ハ銀貨二百八十フラン即チ銀塊十四「キログラム」ヲ倫敦ニ送リ其時ノ相場ニ從フ金「キログラム」下交換シテ之ヲ本国ニ送リ巴

里ノ造幣局ニ依頼シテ金貨ト爲スキハ金貨三千一百「フラン」ヲ得ヘシ之ニヨリ差引三百「フラン」ノ利益ト爲ル此中ヨリ造幣費、運送費其他ノ雜費ヲ差引クモ尙ホ非常ニ有利ナル取引ナリ此ノ如クニシテ銀貨ハ次第ニ佛國ヲ去リ之ニ代リテ現ハレタルモノハ金貨ナリ是レ即チ法定割合ヨリ輕キ金貨幣惡貨力重キ銀貨幣(良貨)ヲ驅逐ストイフ「グレシヤム」法則ノ効ナリ此ノ如クシテ當時佛國ヲ去リタル銀貨ハ二十億「フラン」ニ上リタリトイフ當時英佛ノ地金商ハ競フテ佛國ノ銀貨ヲ集メテ英國ニ送ルニ當リテハ唯其速ナランコトヲ欲スルノミニテ其貨幣ノ種類ノ五「フラン」銀貨タルト「フラン」銀貨タルト五十「サンチーム」貨タルトハ固ヨリ問フ所ニアラサルナリ而シテ是等ヲ集メテ英國ニ送リ代リテ佛國ニ來ル所ノ金塊ニ由リ鑄造セラレタル貨幣ハ皆五「フラン」以上ノ金貨幣ナルヲ以テ佛國忽ニシテ小貨幣ノ缺乏ヲ來シタリ是ニ於テ一千八百六十五年ノ法律ニ依リ五「フラン」銀貨ヲ除キ其他ノ銀貨ノ純分ハ從來千分中九百ナリシモノヲ八百三十五ト爲シ(即チ當時金銀ノ實際比價ニ比シテ割合輕キモノト爲シタリ)每制限ノ法貨タルコトヲ廢シテ補助貨ト爲シ一個人ノ間ニ於テ一口ノ

仕拂高五十「フラン」迄ヲ限リテ法貨トシテ授受セシムルコト、爲シタリ此ニ於テ此等ノ補助銀貨ノ法定價格ハ實際ノ市場價格ニ比シテ不廉ナルモノト爲リタルヲ以テ之ヲ買收シテ輸出スルモ何等ノ利益ナキヲ以テ之ヲ輸出スル者ナク此ニ補助貨ノ流出ハ停止セラレタリ然レトモ五「フラン」銀貨ノ流出ハ尙ホ引續キ行ハレタリ其後二十年ヲ經テ一千八百七十三年ニ至リテ再ヒ金銀二貨ノ比價ニ反對ノ變動起リ佛國ノ貨幣制度ハ再ヒ攪亂セラレタリ亞米利加ニ發見セラレタル銀鑄ヨリ銀ノ巨額ノ產出アリ之ト同時ニ獨逸國ハ金銀本位ヲ採用シ從來ノ通用貨幣タリシ「ターレル」銀貨ヲ賣却シテ金塊ヲ買入レタリ是ニ於テ金銀二金屬ノ比價再ヒ變動シ金ノ「キログラム」ハ銀ノ十四「キログラム」若クハ十五「キログラム」ハト交換セラレサルノミナラス十六、十七、十八遂ニハ二十「キログラム」ト交換セラル、ニ至レリ換言スレハ銀ハ金ニ比シテ大ニ下落シ五「フラン」銀貨ハ其當時ノ市場價格ニ依レハ金貨三「フラン」五十「サンチーム」ニ當ルニ過キス是ニ於テ金貨ハ法定割合ニ比シテ過重ト爲リ銀ハ輕キニ過ルモノナリ爰ニ再ヒ金貨ノ流失ヲ始メタリ佛國ノ銀行家ハ金貨幣三千一百「フラン」即チ重量

「キログラム」ノ金ヲ集メテ倫敦ニ送リ此ニ於テ二十「キログラム」ノ銀塊ト交換シテ佛國ニ輸入シテ銀貨ニ鑄造スルトキハ「フラン」ハ銀五「グラム」ナルヲ以テ四千「スラン」ノ銀貨ヲ得ヘシ即チ差引九百「フラン」ノ利益アリ此中ヨリ多少ノ運送費、造幣費其他ノ諸雜費ヲ差引クモ尙ホ非常ナル利益ヲ得タリ此効ノ結果トシテ佛國ニ於テハ金貨次第ニ減少シ銀貨次第ニ增加シタリ此効ヲ無制限ニ行ハシムルトキハ其結果トシテ一定ノ期間經過ノ後ハ金貨ハ全ク流出シ丁リテ銀貨ノミ流通スルヨト、爲ルヘシ故ニ佛國ハ其當時金貨流出ヲ避ケンカ爲メニ一千八百六十五年ニ採用シタル政策ノ如ク金貨ノ品位ヲ低クシ又ハ銀貨ノ重量ヲ増ス(即チ法定比價ヲ改正シテ)ニ由リテ其目的ヲ達スルコトヲ得タルナランガ度々貨幣ノ改鑄ヲ行フコトハ全貨幣制度ノ不信用ヲ來タシ之カ爲ニ生スル政府ノ損失莫大ナルヲ以テ一層簡單ナル方法ヲ採レリ即チ一千八百七十五年十一月ノ法律ニ依リ五「フラン」銀貨ノ鑄造ヲ停止セリ是ニ於テ佛國ヨリ金塊ヲ輸出シテ銀塊ヲ外國ヨリ輸入スルモ佛國ハ之ヲ貨幣ニ鑄造セサルヲ以テ何等ノ利益ヲ收ムルコト能ハス從テ金貨ノ輸出ヲ企ツル者ナク金貨ノ流

出モ亦停止セラレタリト雖モ銀貨ハ最早鑄造セラレサルヲ以テ引續キ新ニ鑄造セラル、モノ金貨ノミニ限ルヲ以テ名ハ金銀兩本位制ナリト雖モ實際ハ殆ト金單本位制ニ同シト謂ハサルヘカラス此複本位制ノ變體ヲ名ケテ跛本位制(*impure standard*)ト云フ

一千八百七十三年獨逸カ金單本位制ヲ採用シタルカ故ニ銀ノ價格へ大ニ下落シタルニ一千八百七十五年ニハ佛國ヲ始メ其他ラテン同盟國以太利、白耳、義瑞、西希臘カ銀貨ノ鑄造ヲ停止シタルニ因リ銀貨此ニ再ヒ人口八千万人ノ市場ヲ失ヒ大ニ其需要ヲ減少シタルヲ以テ銀貨ノ下落ヲ一層急激ナラシメ一千八百七十二年ニハ金一銀十五五ナリシモノ一千八百七十六年ニハ十六八二ト爲リ一千八百八十年ニハ金一銀一八〇五一、一千八百八十六年ニハ金一銀二〇七八ト爲リタリ

前ニ舉ゲタル佛國ノ實例ニ徵スルモ一國カ他國ニ率先シテ兩本位制ヲ採ルトキハ實際市場ノ比價ト法定比價トノ間ニ等差ヲ生スルトキハ下落シタル貨幣ノミ其國ニ流入シ騰貴シタル貨幣ハ外國ニ流出シ結局其國ノ損失ニ歸スルモ

ノナリ

然レトモ社會一般ヨリ觀ルトキハ金ノ價騰貴セハ兩本位國ハ金ヲ輸出シテ銀ヲ購買ス此ノ銀ニ對スル需要ノ增加ハ銀ノ價格ヲ騰貴セシメ金ノ供給ノ增加ハ金ノ價格ヲ下落セシムモノナリ之ヲ兩本位ノ補正作用トイフ兩本位制ニ於テハ此補正作用ノ効アルヲ以テ單ニ一種ノ金屬ヲ貨幣トスル場合ニ比スレハ貨幣價格ノ變動ヲ少カラシム而シテ其補正作用ハ兩本位制ノ行ハル、區域廣クシテ二金屬既存ノ分量孰レモ多量ナルトキハ有効ニ行ハル、モノナリトイフ理論ハ万國複本位論者即チ一二ノ國カ他國ニ率先シテ兩本位制ヲ採ラントスルモ固ヨリ行ハルヘキコトニアラサレトモ世界ノ主要ナル通商國聯合シテ兩本位制ヲ採ルトキハ能ク之ヲ維持スルコトヲ得ヘシト主張スル者ノ金科玉條ト爲スモノナリ

此等論者皆曰ク一千八百七十三年獨逸金本位ヲ採用セス其後佛國モ其他ノ諸國カ銀貨ノ鑄造ヲ廢止セシテ世界ノ大通商國ハ總テ金一銀十五半ノ比例ヲ以テ萬國兩本位制ヲ採用セハヨク其法定ノ割合ヲ維持スルヲ得ヘカリシニ之ヲ

### 使ノ必要條件ヲ舉クレハ左ノ如シ(商法第二八四條)

- (一) 當事者ノ双方カ商人タルコト
- (二) 其債權ハ當事者ノ双方ニ對シ商行為タル行爲ニ因テ生シタルコト
- (三) 債權者ハ債務者トノ商行為ニ因リテ債務者ノ所有物ヲ占有スルコト
- (四) 辨濟期ノ到來シタルニ拘ハラス未タ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキ民法ノ規定ニ依レハ留置權ノ目的タル物ト債權トノ間ニハ或關係ヲ要ストセリト雖モ商法ニ於テハ此等ノ關係ヲ必要トセス債權者ハ債務者トノ商行為ニ因リ債務者ノ所有物ヲ占有スルトキハ其所有物ト何等ノ關係ナキ商行為ニ因リテ發生シタル債權ノ爲ミニ其物ヲ留置スルコトヲ得ルモノナリ而シテ留置權者カ商法上ノ留置權ヲ行使スルニ付キ此他民法ノ規定ト異ナリタルニ簡ノ條件ノ存スルコトヲ忘ルヘカラス其一ハ當事者双方共ニ商人タルコトヲ必要トスルモノニシテ商人間ニ非サレハ商法上ノ留置權ハ存在スルコトヲ得サルモノナリ其ニハ留置權ノ相保スル債權ハ當事者双方ノ爲ミニ商行為タル二箇ノ因リテ生シタルモノナルコトヲ要ス換言スレハ双方の商行為ナルコトヲ必

要トスルモノニシテ其一方ニ對シテ商行爲ナルモ他ノ者ニ對シテハ商行爲タラサル場合ヲ包含セサルモノナリ  
商法上ノ留置權ハ商取引ヲシテ確固ナラシメンカ爲ミニ特ニ認メラレタル制度ニシテ各商人ヲ保護セントノ主旨ニ出ツルモノナリ然レトモ商人間ニ於時トシテ商法上ノ留置權ノ適用ヲ受クルヨリハ民法上ノ留置權ヲ便トスルコトアリ此場合ニ於テ特別ノ明文ナランハ當事者ニシテ商法所定ノ條件ヲ具備シタルトキハ必ス商法上ノ留置權ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ當事者ノ選擇ニ依リ自由ニ民法ノ規定ニ依ルコトヲ得スト解釋スルヲ穩當トス然レトモ此ノ如キ場合ニ於テ當事者ノ自由意思ヲ制限スル必要ナキヲ以テ商法第二百八十四條但書ニ於テ當事者ノ自由意思ヲ認メタリ

### 第十三節 時効

本節ニ於テ單ニ時効ト題スルモ其實消滅時効ニ關スル規定ノ説明ニ過キス民法第一百六十七條乃至第一百七十四條ノ規定ニ於テハ債權ノ種類ニ依リ時効ヲ異ニスト雖モ第二百六十九條以下ノ規定ニ包含セラル、債權ニ非ナルヨリハ其

他ノ債權ハ十年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキモノナリ然レトモ商業上取引ニ於テハ迅速ヲ尊フヲ以テ取立ツヘキ債權アラハ迅速ニ之ヲ取立ツヘキニ拘ヘラス之ヲ拋擲スルハ債權者ノ過失又ハ怠慢ト稱スルヲ得ヘク尙ホ商事ニ於テハ民事ニ比シ權利ヲシラ長ク不確實ノ情態ニ在ラシムヘカラサルノ必要アルヲ以テ民法上ノ時効ヲ短縮セサルヘカラス故ニ我商法ハ第二百八十五條ヲ以テ之カ規定ヲ設ケ商行爲ニ因リテ生シタル債權本法ニ於テ別段ノ規定アル場合ノ外ハ五年間行使セサルニ因リテ消滅スルコトヲ明カニセリ且本條ノ規定ハ可成早ク權利ヲシテ確定ナラシメントノ主旨ニ外ナラサルヲ以テ他ノ法令中ニ五年ヨリ短キ時効ノ設アル場合ニ於テ猶ホ商法ノ規定ニ依リ五年ノ時効ニ據ラシメントスルハ其精神ニ於テ前後矛盾スルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ商法第二百八十五條但書ヲ以テ此場合ニ關スル規定ヲ設ケタリ

## 第二章 賣買

賣買ニ關スル精細ナル諸點ハ民法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニ賛セスト雖モ商事ニ於ケル賣買ナルモノハ民法ニ於ケル賣買ト其性質ヲ異ニスルモノニ非サ

ルカ故ニ商法ニ於テ賣買ヲ論スルニ當リテハ勢ヒ民法ノ規定ヲ參酌スルノ必  
要アリ余カ本章ヲ論スルニ當リテハ力メテ民法上ノ賣買ニ關スル説明ヲ避タ  
ヘシト雖モマ、枝葉ニ涉リテ論議スルノ止ムヲ得サルコトアリテ民法ノ講義  
ト重複スルノ嫌アルコトアルヘシ諸君諒セヨ

本章ニ論スルニ當リテ左ノ三節ニ別チテ之ヲ論スルヲ便宜トス

### 第一節 總論

#### 第二節 買主ノ義務

##### 第三節 賣買契約ノ解除

### 第一節 總論

**(第一定義)** 賣買ノ如何ナルモノナムヤハ民法第五百五十五條ノ規定スル所ナ  
リ同條ニ依レハ賣買トハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉シ相手  
方ハ之ニ對シテ代金ヲ拂フコトヲ約スル契約ナリ  
此定義ニ從ヘハ賣買ノ目的物ハ必ス財產權及ヒ代金ナラサルヘカラス  
苟モ財產權タルモノハ明カニ之カ讓渡ヲ禁止シタル場合ヲ除クノ外賣買ノ

目的物ト爲ルヲ得サルモノナシ古來未タ債權ノ讓渡ヲ認メサル時代ニ於  
テハ賣買ノ目的物ハ財產權ナリト云フハ廣キニ失スルノ嫌アリト雖モ我  
民法ハ原則トシテ債權ノ讓渡ヲ認メタルノミナラス著作權專賣權等ノ如  
キ無形ノ権利ノ移轉ヲ認メタルカ故ニ廣々財產權ナリト云フハ不當ノコ  
トニ非サルヘシ

賣買當事者ノ一方ハ財產權ヲ移轉シ相手方ハ反對給付トシテ金錢ヲ支拂  
ハサルヘカラス代金ナル概念ハ賣買ニ缺クヘカラサル所ニシテ之ニ由テ  
履備交換請負等ト區別スルコトヲ得ヘシ而シテ代金トハ對價トシテ交付  
スヘキ金錢ヲ意味スルモノナリ故ニ或財產權ノ移轉ニ基キ相手方ニ對シ  
テ金錢ヲ支拂フコトアリト雖モ對價トシテ支拂フニ非サレハ賣買ト稱ス  
ルコトヲ得ス是レ負擔附贈與ト異ナル所ナリ茲ニ注意スヘキハ代金ノ數  
量ハ必スシモ契約當時ニ於テ定マルコトヲ要セス賣買契約ノ當時ニ於テ  
代價ノ數量ヲ確定セス更ニ後日ニ於テ第三者ヲシテ其價格ヲ定メシメ若  
クハ市價ニ應シテ代金ヲ支拂ハント約スルカ如キハ毫モ賣買タルノ要件

ヲ缺クモノニ非サルナリ

(第二) 性質 以上述へタル所ニ依レハ賣買契約ノ要素ハ(一)財產權(二)代金(三)合意ニシテ若シ其一ヲ缺ケハ最早賣買契約ニ非サルナリ

(一) 賣買契約ハ諸成契約ナリ 諸成契約トハ單ニ當事者ノ意思ノ合致ニヨリ成立スルモノニシテ契約ノ成立ニ關シ何等ノ方式ヲ要セサルモノナリ諸成契約ナル語ハ羅馬法以來行ハル、所ニシテ書面契約、口頭契約及ヒ要物契約ニ對峙スルノ語ナリ古來社會ノ幼稚ナル時代ニ於テハ舉證及ヒ公示ノ方法不完全ナルヲ以テ勢ヒ方式ニ重キヲ置カサルヲ得ス然レトモ今日世運ノ進歩ニ伴ヒ舉證及ヒ公示ノ方法完備スルニ至リテハ方式ニ拘泥スルノ必要ナク隨テ今日ニ於テハ諸成契約ノミ行ハレ書面契約、口頭契約及ヒ要物契約ハ僅ニ例外トシテ存スルノ民法第五百五十五條ノ規定ヲ觀ルニ當事者ノ一方ハ相手方ニ對シ財產權ヲ移轉シ相手方ハ之ニ對シテ代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生スルモノニシテ別ニ物ノ引渡若タハ書面ノ方式ヲ要セス

ヲ缺クモノニ非サルナリ

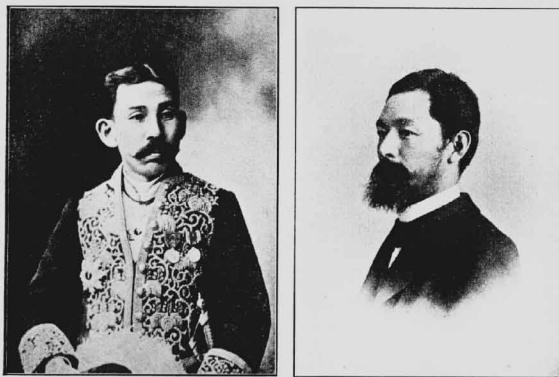
六二

第二 性質 以上述ヘタル所ニ依レハ賣買契約ノ要素ハ(一)財產權(二代金三)合意ニシテ若其一ヲ缺クハ最早賣買契約ニ非サルナリ  
(一) 賣買契約ハ諸成契約ナリ 諸成契約トハ單ニ當事者ノ意思ノ合致ニ

賣買契約ハ前成契結ナリ 詞成契結ノ事に當事者ノ署名・印押  
ヨリ成立スルモノニシテ契約ノ成立ニ關シ何等ノ方式ヲ要セザルモ  
ノナリ 誥成契約ナル語ハ羅馬法以來行ハル、所ニシテ書面契約口頭  
契約及ヒ要物契約ニ對峙スルノ語ナリ 古來社會ノ幼稚ナル時代ニ於テ  
ハ舉證及ヒ公示ノ方法不完全ナルヲ以テ勢ヒ方式ニ重キヲ置カサルヲ  
得ヌ然レトモ今日世運ノ進歩ニ伴ヒ舉證及ヒ公示ノ方法完備スルニ  
至リテハ方式ニ拘泥スルノ必要ナク随テ今日ニ於テハ諸成契約ノミ  
行ハレ書面契約・口頭契約及ヒ要物契約ハ僅ニ例外トシテ存スルノミ  
民法第五百五十五條ノ規定ヲ觀ルニ當事者ノ一方ハ相手方ニ對シ財  
產權ヲ移轉シ相手方ハ之ニ對シテ代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ



君耶次謙梅士博學法



小川一與製

君重陳積德士博學法

君華政井富士博學法

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通  
信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ署紙ニ問題ト其疑點

トヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ

半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタ

ル質疑ハ回答セス

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ

亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義錄  
ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘ  
シ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十月廿四日印刷  
明治三十二年十月廿五日發行

編輯者 東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地  
小川幹治郎

印刷者 東京市芝區四ノ久保明治町十一番地  
金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保明治町十一番地  
金子活版所

發行所 司法省和佛法律學校

一所在(東京市麹町區富士見  
町六丁目十六番地)

電話(番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可